

時事経済情報 No. 103

2023年11月27日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島 精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向

I 米⼁国經济

1. FOMCは2回連続で金利据え置きを決定

①10月31日～11月1日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) は前回に続き、FF金利の利上げを見送り、レンジを5.25～5.5%に据え置いた。

②声明文の内容は前回とほぼ変わらず。
「経済活動は勢い強く (strong pace) 拡大、雇用は落ち着いてきたが、強く、失業率は低く、インフレは高止まりしている。金融引き締めが経済、雇用、インフレの重荷となるが、その効果は不確実であり、引き続きインフレリスクに重大な関心を持っている」

→9月の声明分は「堅調に (solid pace) に拡大」

②FOMCは今後も追加情報と金融政策への影響評価を継続し、追加的な引き締め度合いは引き締めの累積効果、景気やインフレへのラグ、経済金融の動きを考慮して決まる、としている。

③資産減額は予定通り実施する。FOMCは2%インフレ目標への復帰に強くコミットする。

④パウエル議長は「インフレを2%に引き下げる金融政策を約束しているが、2%インフレ目標を達成したという自信はまだない。FOMCは現時点で利下げについては全く考えていない」と発言した。



2. 米GDP7～9月期は内需主導で4.9%成長

①7～9月期の実質GDP(速報)の伸びは+4.9%(前期比年率、右上図)と、5四半期連続のプラス。前年比は+2.9%(右下図)

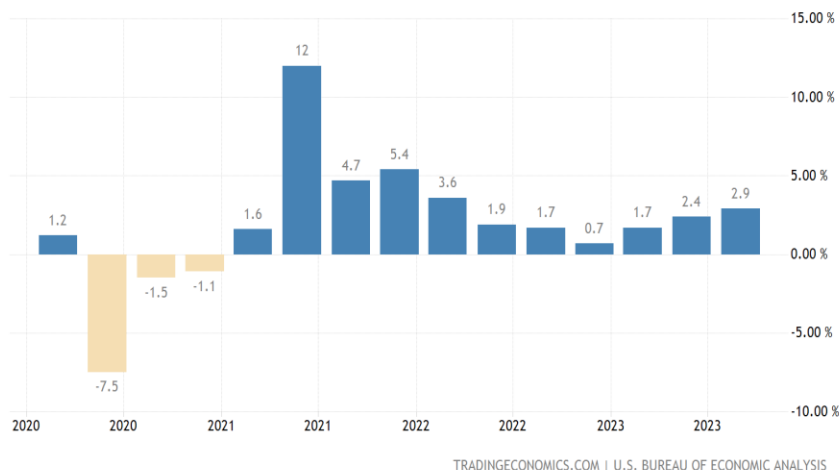
②7～9月期の内需の寄与度は+4.95%、外需の寄与度は▲0.08%。

③個人消費の伸びは前期の+0.8%から+4.0%(モノ+4.8%、サービス+3.6%)に加速、寄与度は+2.69%。設備投資の伸びは前期の+7.4%から▲0.1%に低下、寄与度は▲0.0%。住宅投資の伸びは+3.9%と10四半期ぶりのプラス、在庫投資の寄与度は+1.32%。政府支出の伸びは+4.6%(連邦+6.2%、地方+3.7%)で寄与度は+0.79%

④輸出の伸びは+6.2%、輸入は+5.7%。

⑤名目GDPの伸びは+8.5%、GDP物価指数は+3.5%。

⑥今後の見方についてはコロナ対応の「米国救済計画」の現金給付で膨れ上がった過剰貯蓄がほぼ解消したので、消費主導の成長は終焉を迎えるとの悲観論もある。



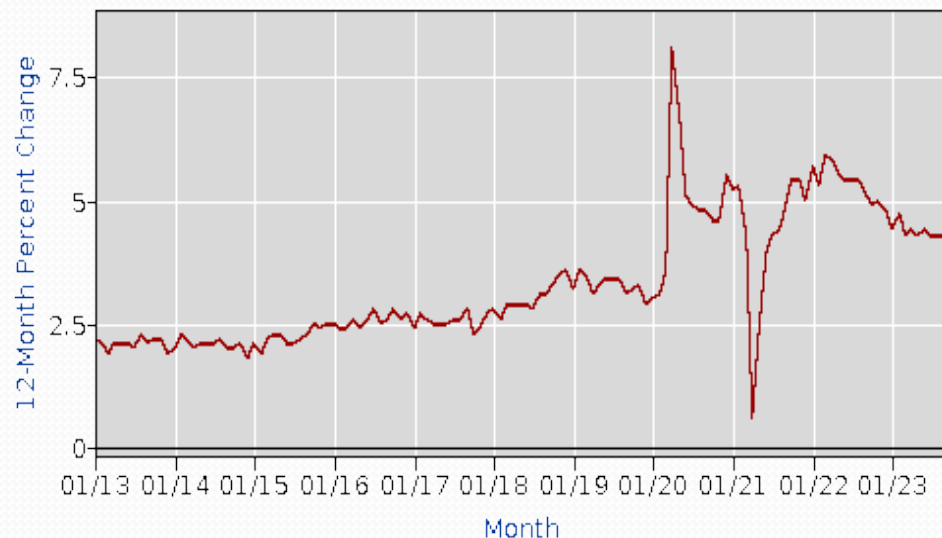
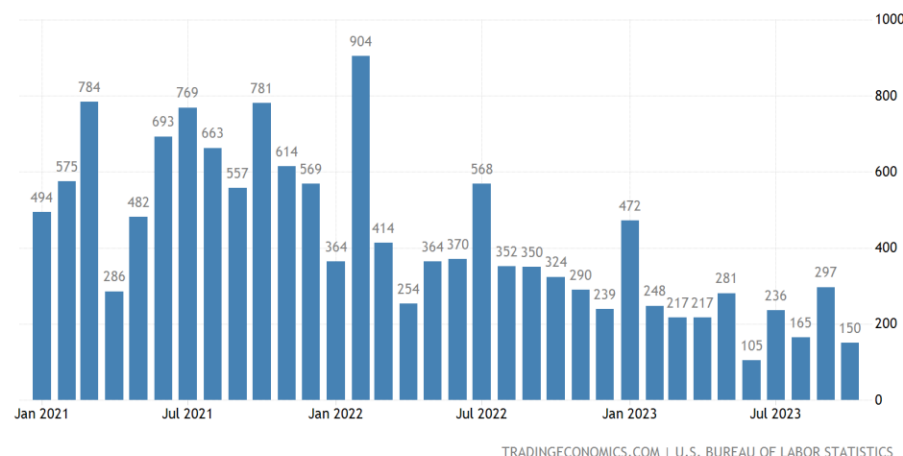
3. 米雇用者数の伸びは予想を下回る低い伸び

①10月の非農業雇用者数(事業所調査ベース)前月比(右上図)は+15.0万人の増加で事前予想の+19.0万人を下回った。

②業種別ではヘルスケア+5.84万人、政府+5.1万人、社会支援+1.88万人などが増加。一方、ストライキの影響で製造業は▲3.5万人と減少。

③家計調査ベースの失業率は3.9%と前月より+0.1ポイント上昇。労働参加率は62.7%で前月比▲0.1ポイントの低下。

④時間当たり賃金は前月比+7セント上昇して34.0ドル、前年比(右下図)は+4.1%と前月より▲0.2ポイント伸びが低下した。

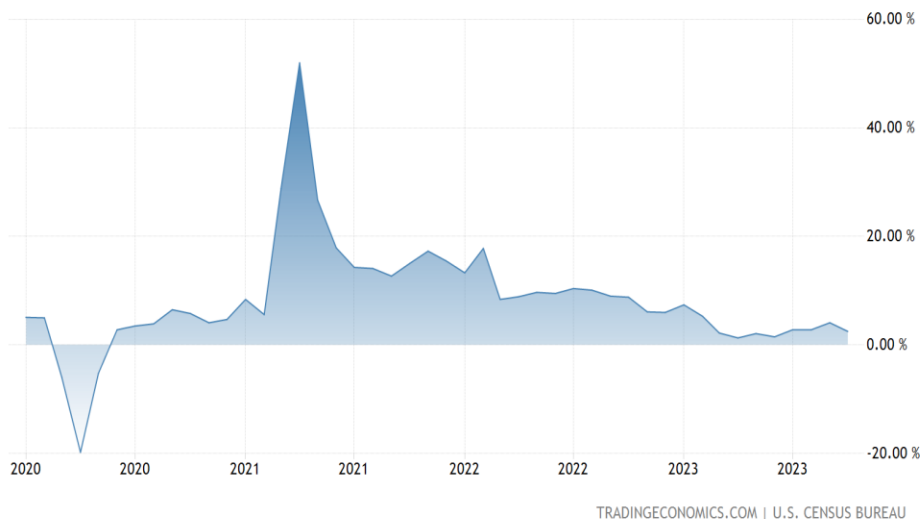
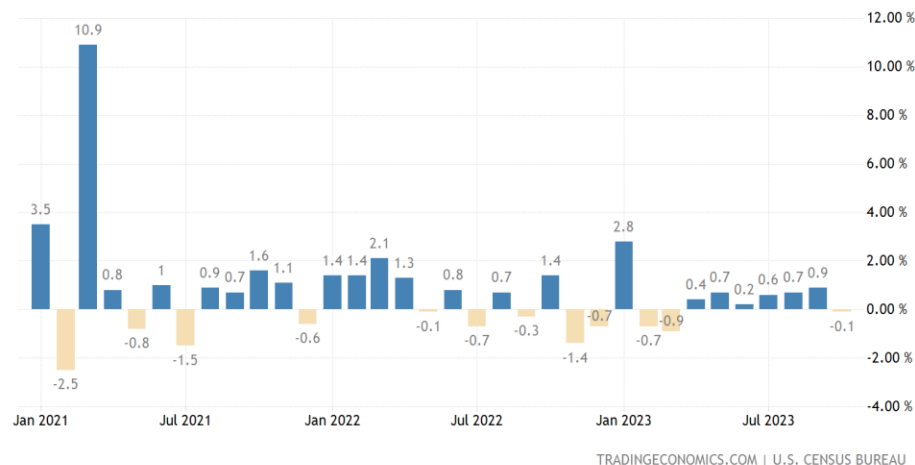


4. 米小売売上高は回復傾向が一服

①10月の小売売上高の前月比(右上図)

▲0.1%、前年比(右下図)は+2.5%。

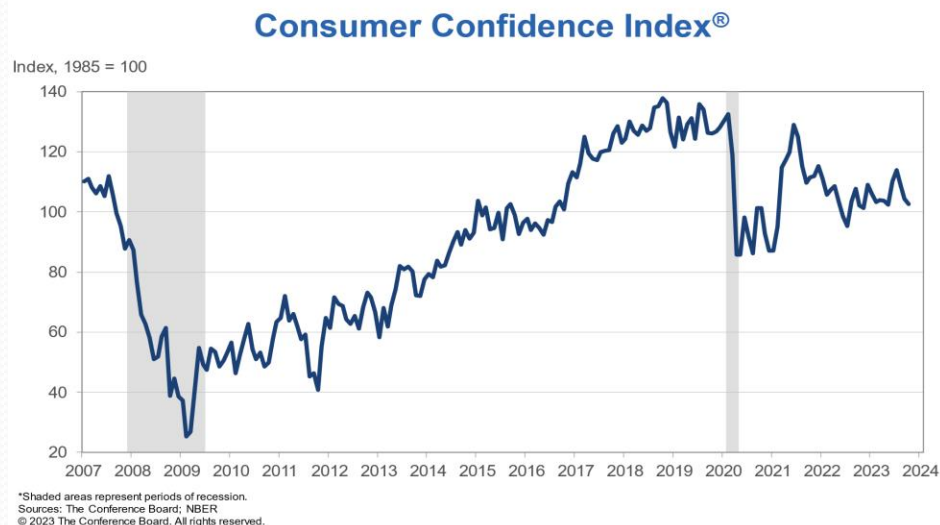
②業種	前月比	前年比
自動車	▲1.0%、	+3.3%
家具	▲2.0%、	▲11.8%
電気製品	+0.6%、	+0.9%
建設資材園芸用品	▲0.3%、	▲5.6%
食料品店	+0.6%、	+1.0%
健康ケア	+1.1%、	+9.6%
ガソリンスタンド	▲0.3%、	▲7.5%
衣服アクセサリー	0.0%、	+0.8%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	▲0.8%、	▲3.8%
総合スーパー	▲0.2%、	+1.9%
無店舗販売	+0.2%、	+7.6%
飲食業	+0.3%、	+8.6%
合計	▲0.1%、	+2.5%



5. 米消費者信頼感指数は下降に向かう

①11月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、60.4で前月比▲3.4ポイントの低下。現状指数は70.6から65.7に低下、期待指数は59.3から56.9に低下。

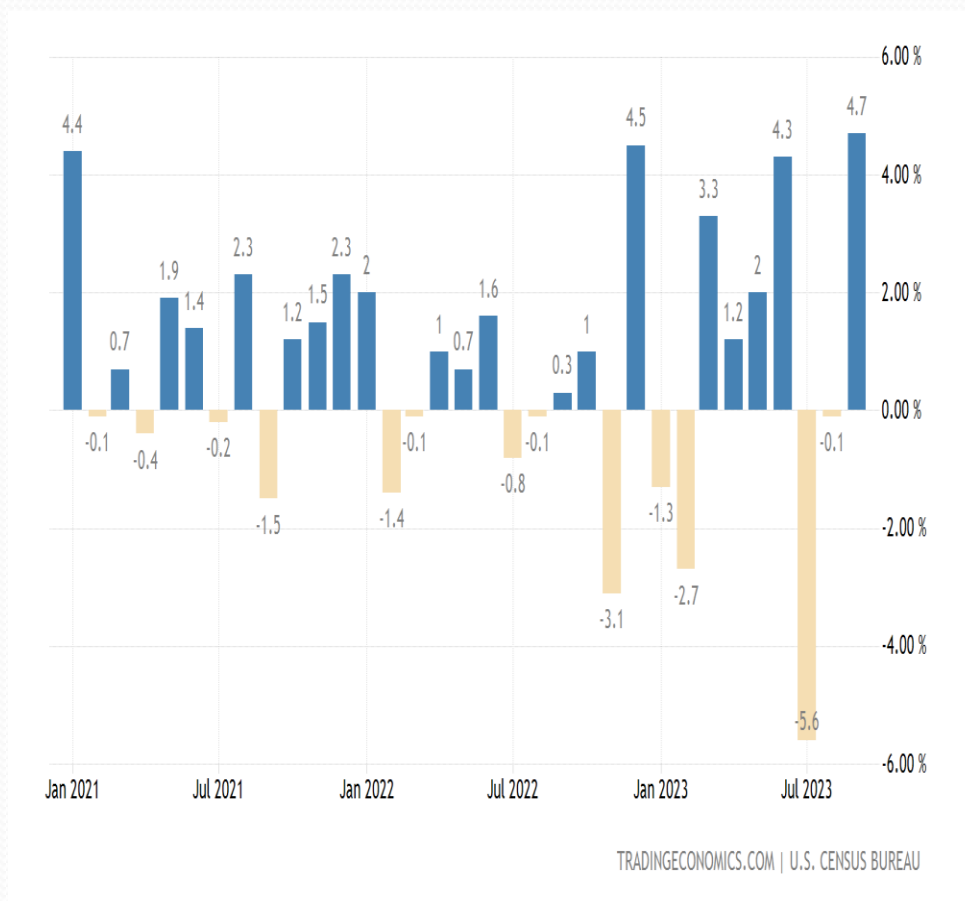
②10月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は102.6で前月比▲1.7ポイントの低下。現状指数は9月146.2→10月143.1に低下。期待指数は9月76.4→10月75.6に低下するなど、1年以内の景気後退を示す分岐点80を割ったままで、要注意である。



6. 米耐久財新規受注は大筋として堅調推移

①9月の耐久財新規受注(速報)は前月比(右図)+4.7%、前年比は+6.0%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比+0.5%、前年比+0.3%、国防を除く耐久財新規受注は前月比+5.8%、前年比+6.3%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+0.6%、前年比+0.8%。

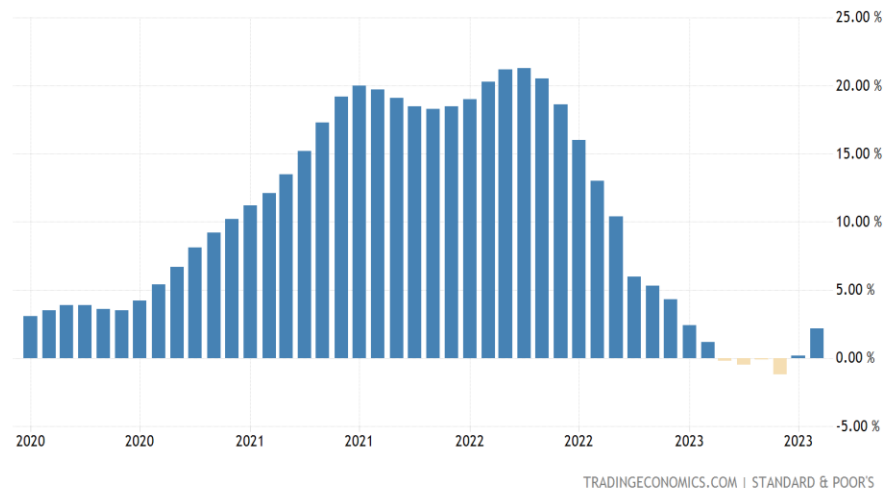
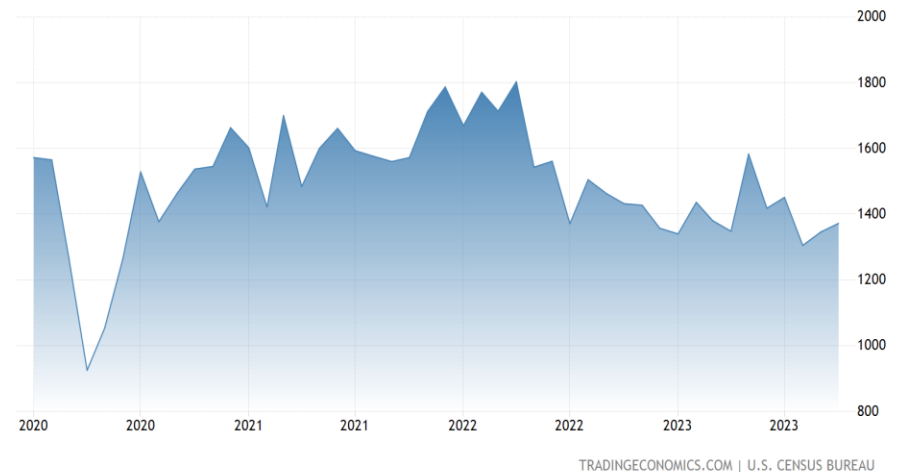


7. 米住宅市場は底入れの兆し

①10月の米住宅着工戸数は年率137.2万戸(右上図)、前月比は+1.9%、前年比は▲4.2%。一戸建は前月比+0.2%、前年比は+13.1%、集合住宅(5件以上)は前月比+4.9%、前年比▲31.8%。地域別前月比、前年比は北東部▲14.5%、▲24.5%、中西部+28.4%、+5.2%、南部▲6.8%、▲8.1%、西部+12.5%、+4.7%。

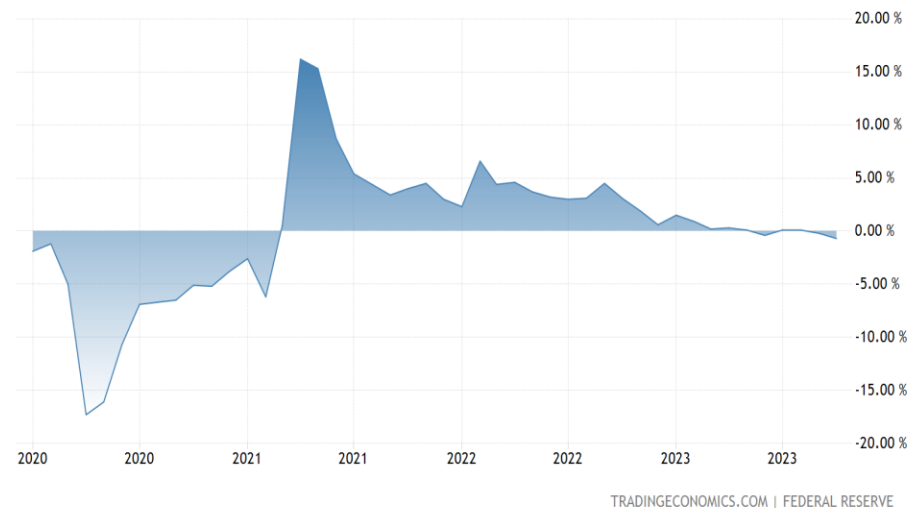
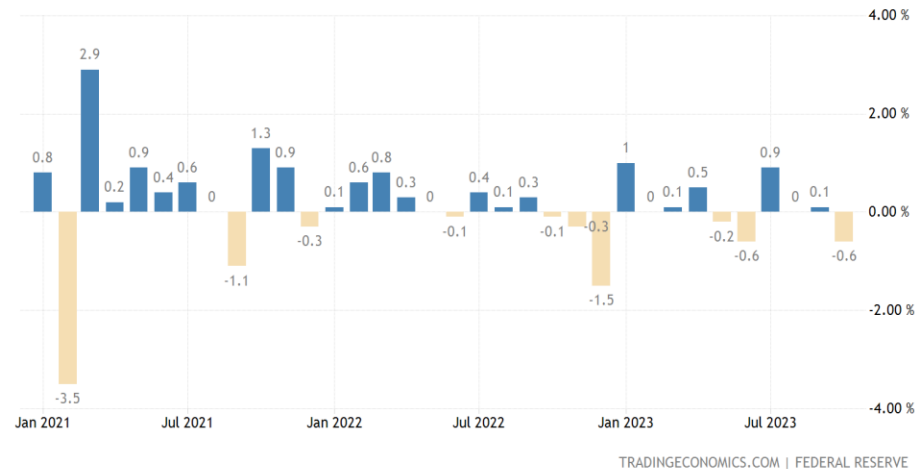
②7月のケースシラー住宅価格指数(20都市)は前月比+0.4%、前年比+2.2%(右下図)と下げ止まって反転上昇の兆し。

③9月の新築住宅販売戸数は年率75.9万戸、前月比+12.3%、前年比+33.9%に回復。地域別前月比、前年比は北東部+22.5%、+63.3%、中西部+4.7%、+4.7%、南部+14.6%、+29.9%、西部+7.5%、+53.3%。販売在庫比率は6.9ヶ月と前月より+0.8ヶ月低下。



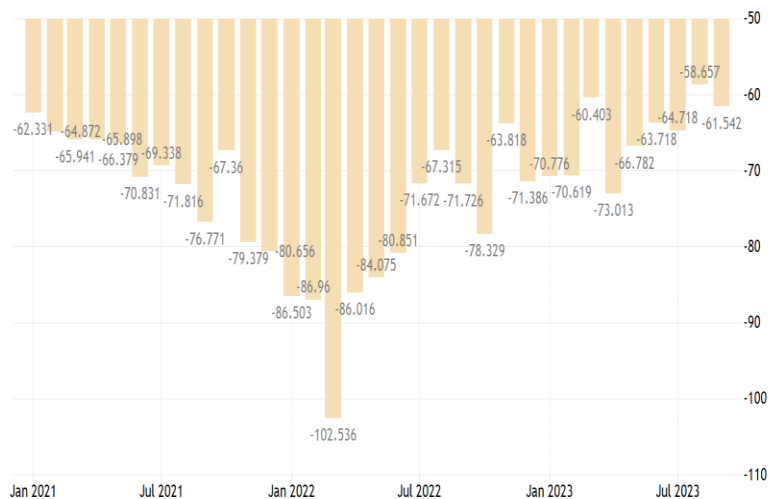
8. 米鉱工業生産は低迷が続く

- ①10月の米鉱工業生産指数は前月比▲0.6%（右上図）。前年比は▲0.7%（右下図）。
- ②鉱業の前月比は+0.4%、前年比は+2.2%、公益事業の前月比は▲1.6% 前年比+2.9%。
- ③製造業の前月比は▲0.7%、前年比は▲1.7%。うち自動車及び部品はそれぞれ▲10.0%、▲6.6%、コンピュータ・電子機器は+1.9%、+5.5%、航空機は+1.0%、+4.5%、金属製品▲0.1%、▲1.9%、食料・飲料・タバコ+0.2%、▲3.6%、化学は▲0.6%、+1.3%。
- ④設備稼働率指数（製造業）は77.2と前月比▲0.6ポイント低下。長期平均78.2を▲1.0ポイント下回る。

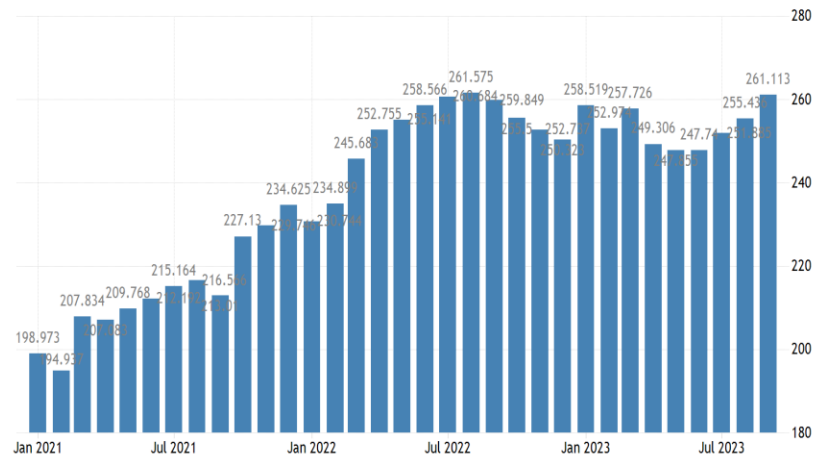


9. 米貿易赤字は輸入増でやや拡大

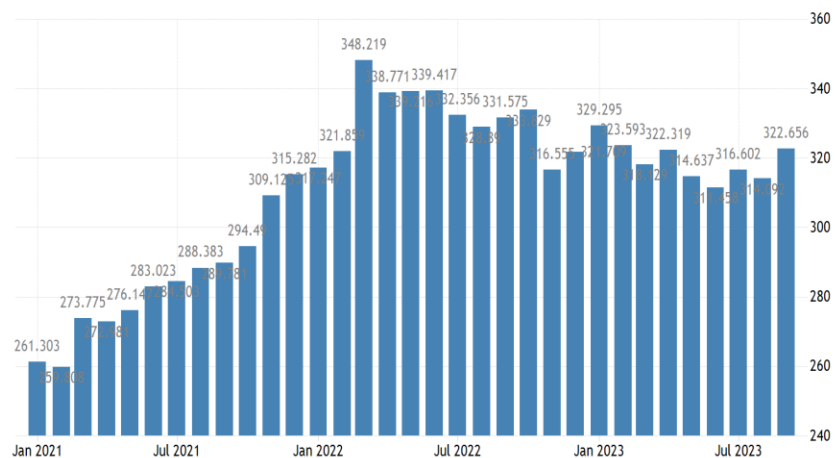
- ①9月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は前月比▲29億ドル悪化して▲615億ドルの赤字に拡大。
- ②財・サービス輸出(右上図)は前月比+57億ドル増の2,611億ドル(前年比+4.9%)。前月比で工業用原材料+14億ドル、食飲料+14億ドル。
- ③財・サービス輸入(右下図)は前月比+86億ドル増加して3,227億ドル(前年比▲2.7%)。前月比で消費財+20億ドル、資本財+16億ドル、自動車・部品+19億ドル。
- ④対中輸出は118.35億ドルで前年比+0.1%、対中輸入は402.82億ドルで前年比▲18.2%。



TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

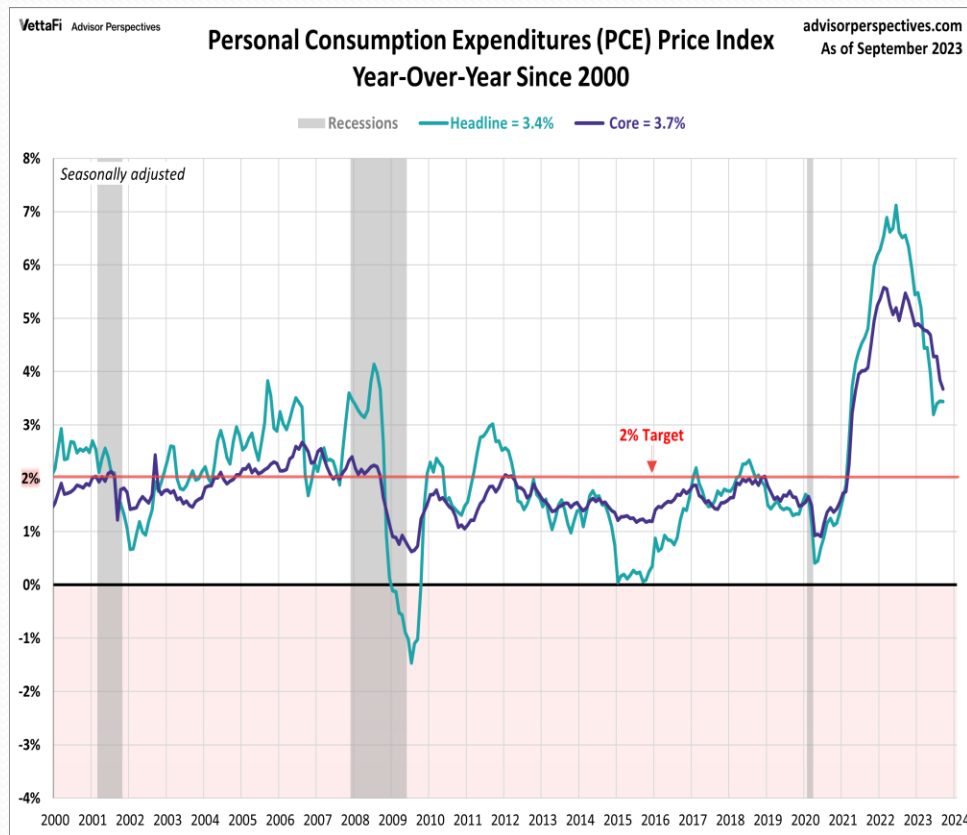
10. 米コアPCEの伸びは4%を下回る

①9月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図緑線)は+3.4%と前月と変わらず。前月比は+0.4%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+3.7%と前月より▲0.1ポイント低下するも、依然としてFedの物価目標2%を大きく上回る。前月比は+0.3%。

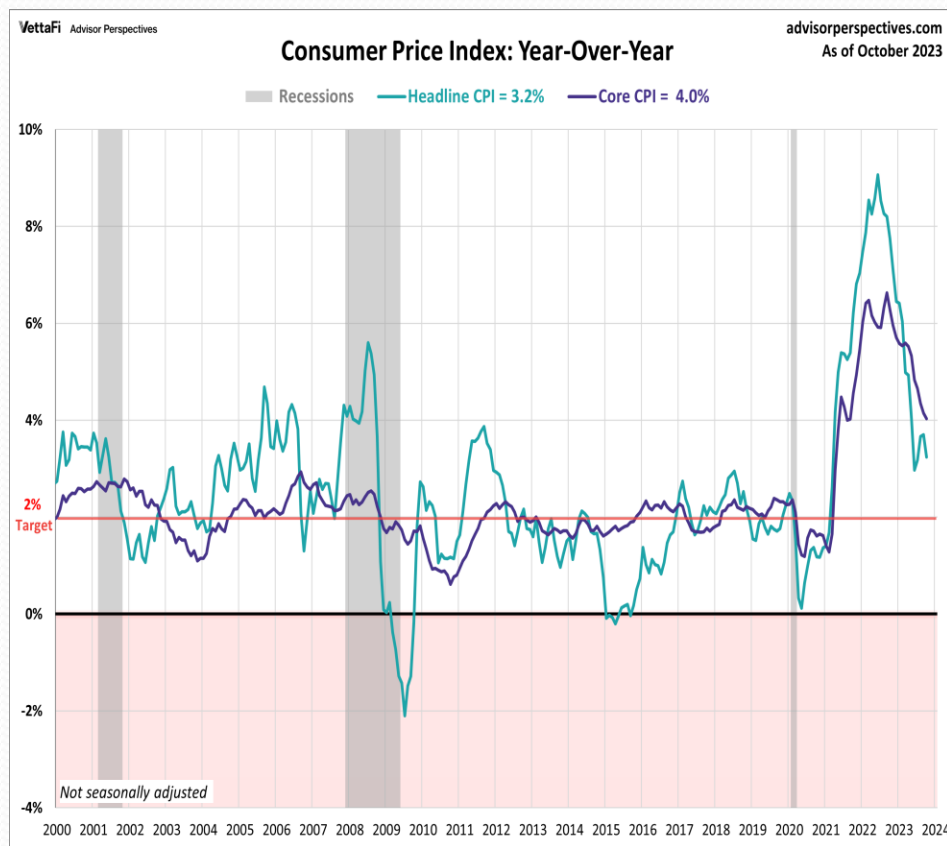
③財価格の前年比+0.9%、前月比は+0.2%、サービス価格の前年比は+4.7%と前月より▲0.2ポイント下回る、前月比は+0.5%。エネルギー価格の前年比は0.0%、前月比+1.7%。

④期待インフレ率指標(BEI)は10月24日時点で10年物2.25%、5年物は2.19%と前月よりやや低下。



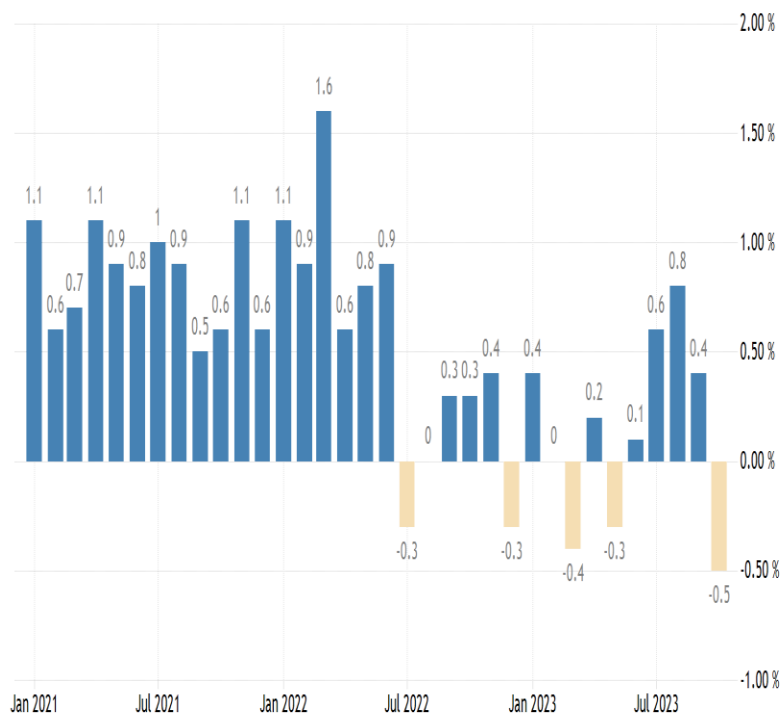
11. 米消費者物価（コア）の伸びは4%台を維持

- ①10月のCPI（消費者物価指数）総合の前年比（右図緑線）は+3.2%と前月より▲0.5ポイント低下。前月比は0.0%。
- ②エネルギーの前年比は▲4.5%（うちガソリン▲5.3%、燃料油▲21.4%、電気+2.4%、都市ガス▲15.8%）、前月比は▲2.5%（うちガソリンは▲5.0%、燃料油は▲0.8%、電気+0.3%、都市ガス+1.2%）。
- ③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比（右図青線）は+4.0%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下。前月比は+0.2%。
- ④サービス（除くエネルギーサービス）の前年比は+5.5%、前月比は+0.3%。

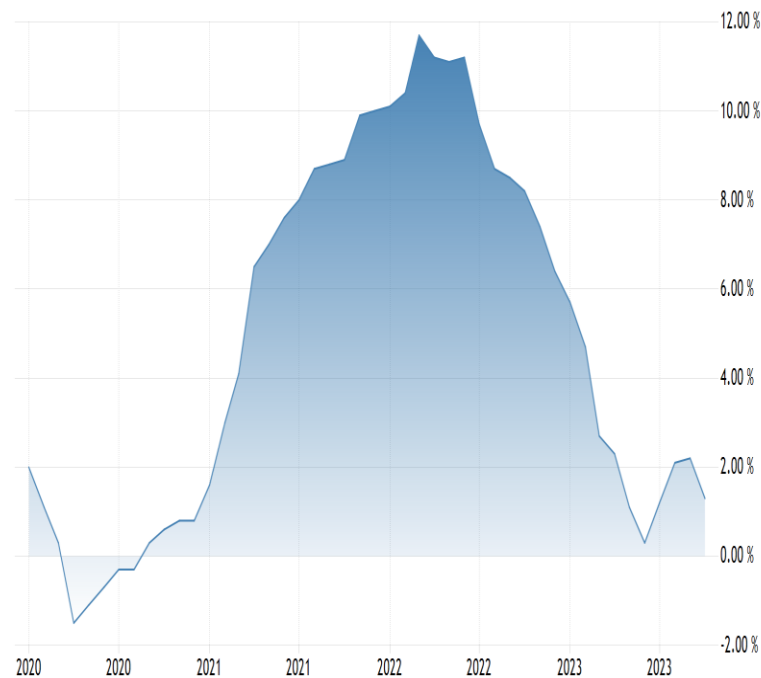


12. 米生産者物価はエネルギー価格下落が響く

10月のPPI（生産者物価指数）総合の前月比（左下図）は▲0.5%。前年比（右下図）は+1.3%と前月より▲0.9ポイント伸びが低下した。コアの前月比は+0.1%、前年比は+2.9%。



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

13. 米製造業PMI指数は底入れの兆しも

①米サプライマネジメント協会 (ISM)
の10月製造業PMI指数(右図濃青線)は
46.7と前月比▲2.3ポイントの低下。
項目別前月比では

新規受注▲3.7ポイント

生産▲2.1

雇用▲4.4

供給者納入+1.3

在庫▲2.5

顧客在庫+1.5

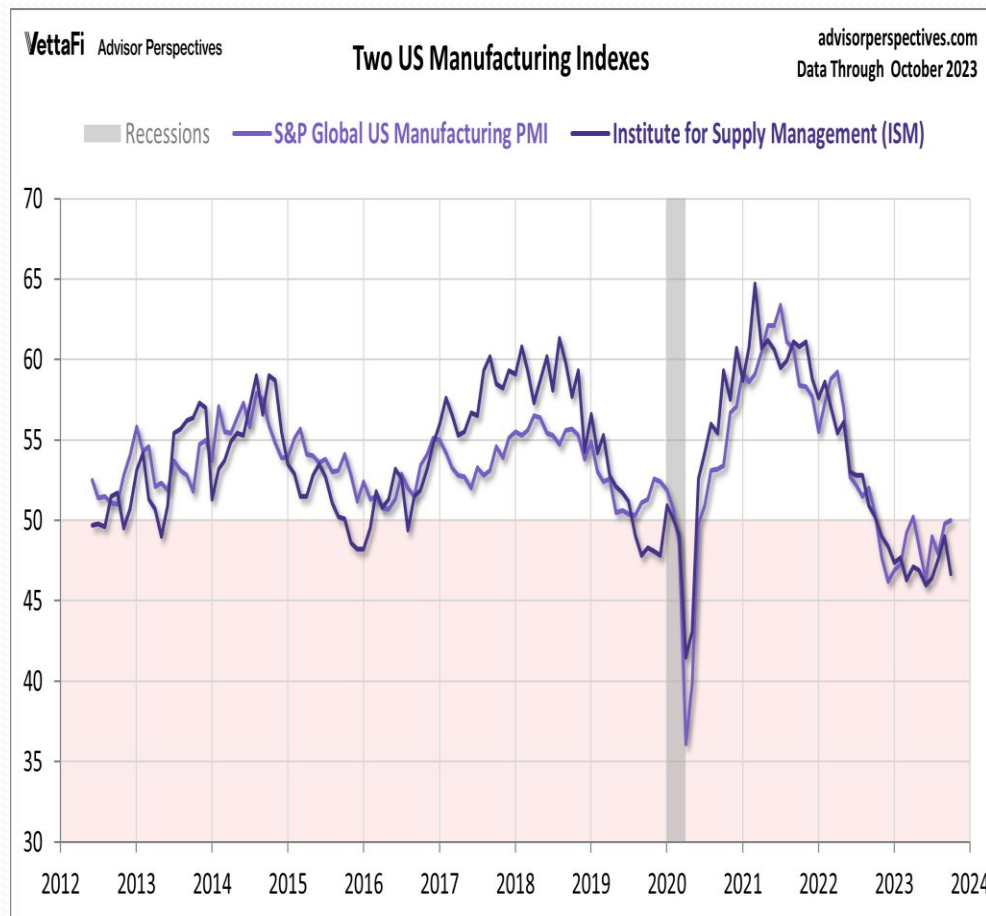
価格+1.3

受注残▲0.2

新規輸出受注+2.0

輸入▲0.3

②10月S&P製造業PMI指数(右図薄青線)
は50.0と前月比+0.2ポイント上昇。





II 欧州経済

1. ECBは10回連続の利上げ後、利上げ停止

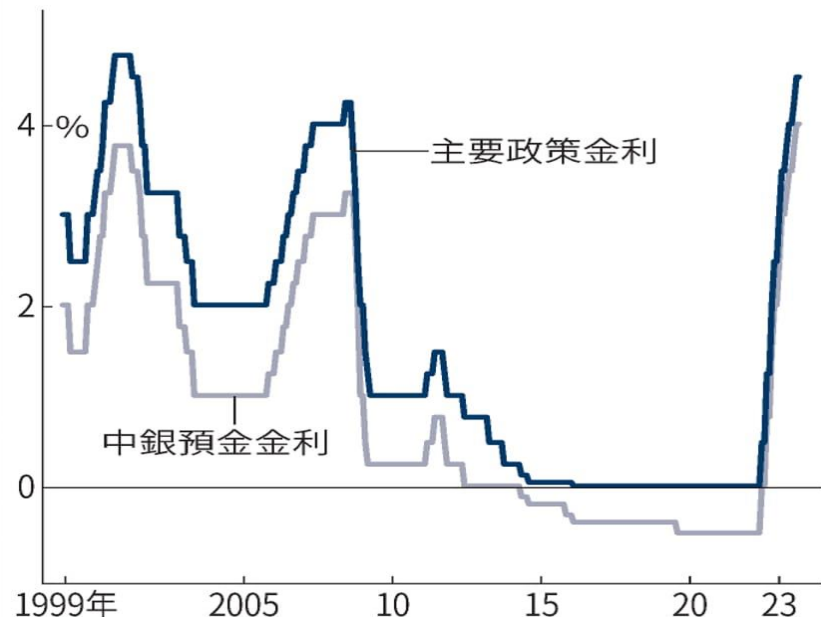
①ECBは2022年7月にゼロ金利政策を解除し、10回連続の利上げを続けてきたが、10月26日の理事会で初めて政策金利を据え置いた。預金ファシリティ金利4.0%、主要レポ金利4.5%、限界貸出ファシリティ金利4.75%のままである。

②声明文は「インフレはtoo high for too longに留まると予想されるが、9月は著しく伸びが低下した」としている。但し、ラガルド総裁は「再び利上げしないとは言っているわけではない。利下げの議論は時期尚早である」と市場の動きを牽制している。

③資産購入プログラム(APP)に基づき購入した資産は元本再投資の停止により減少を続け、Pandemic Emergency Purchase Programme (PEPP)は満期が来たものは少なくとも2024年末まで元本を再投資する方針は不変。

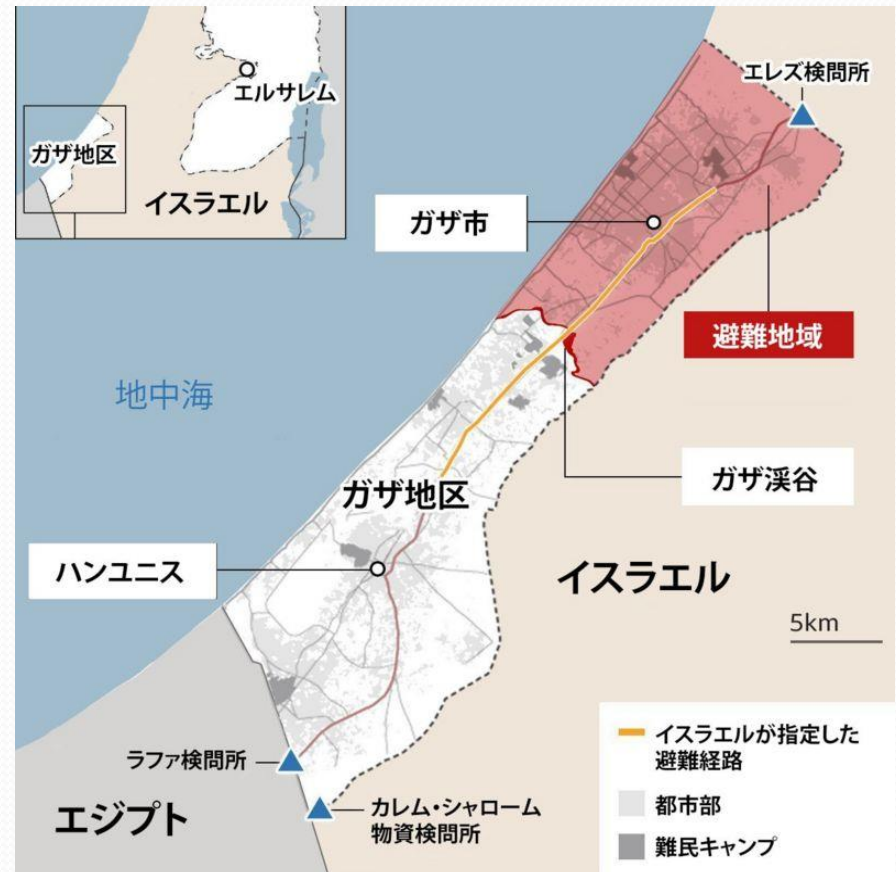
④民間銀行はTLTRO-III(金融政策の伝達経路を改善することを目的とした長期資金供給オペ)で借り入れた資金を返済中で、ECB理事会はTLTROとその返済が金融政策にどう貢献しているのかを定期的に評価する、としている。

ECBは急ピッチで利上げを続けてきた



2. イスラエル軍のガザ侵攻で国際世論が沸騰

10月26日にイスラエル軍がガザ地区北部で地上作戦を始めからて1ヶ月が経過するが、市街地、病院、学校への攻撃で多数の民間人の犠牲者も出ており、イスラエル軍のガザ侵攻に対して国際世論が沸騰している。11月24日から4日間の「人道的休戦」で合意ができ人質の解放が予定されている。イスラエルのネタニヤフ首相はこれは「停戦」ではない、と強調しており、ハマス壊滅に向けた作戦を継続する方針だが、イスラエルとイスラエルを支持する米国が国際社会で孤立するリスクも大きくなってきている。



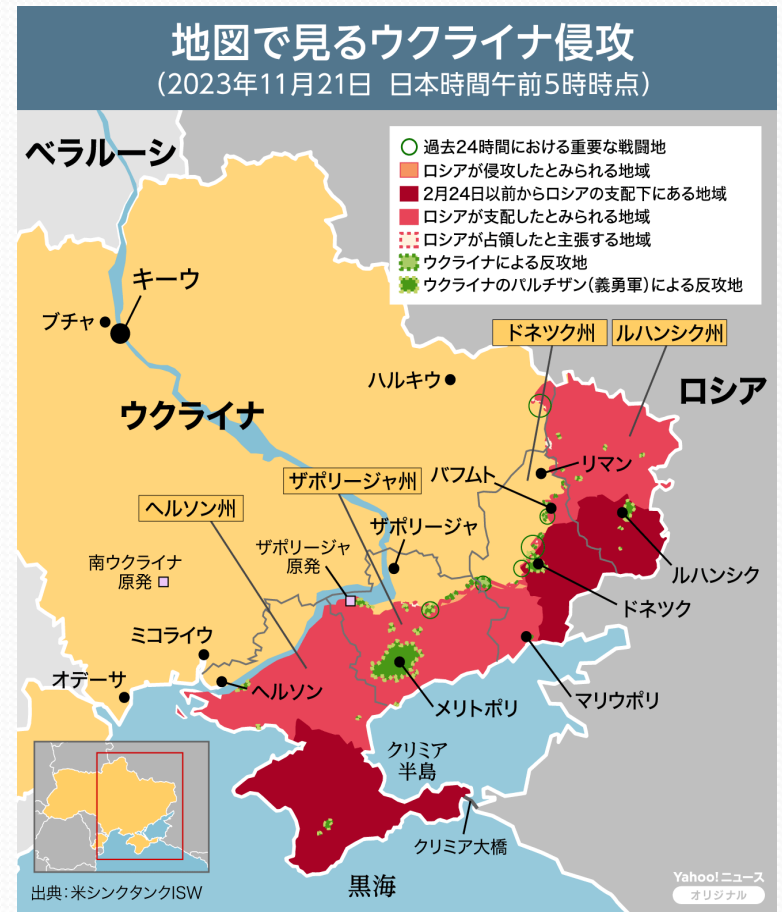
出典：国連人道問題調整事務所(2023年)、イスラエル国防軍

BBC

3. ウクライナ戦争膠着状態続く

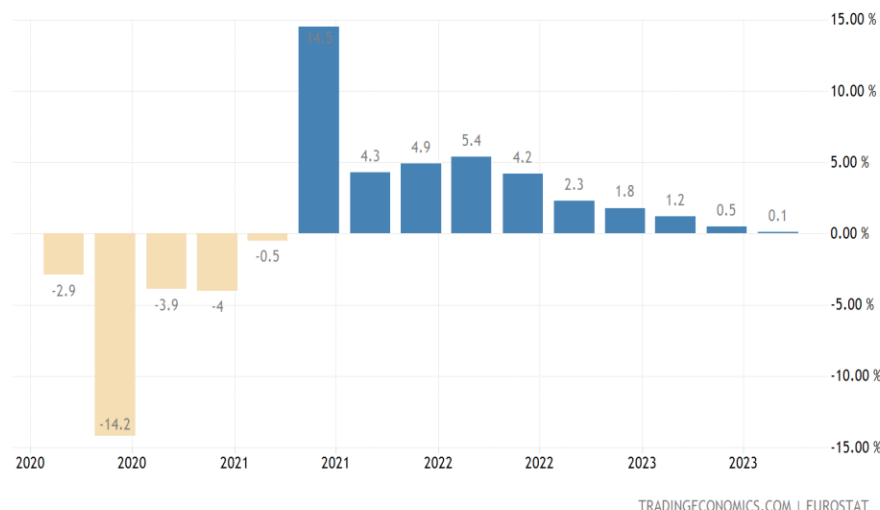
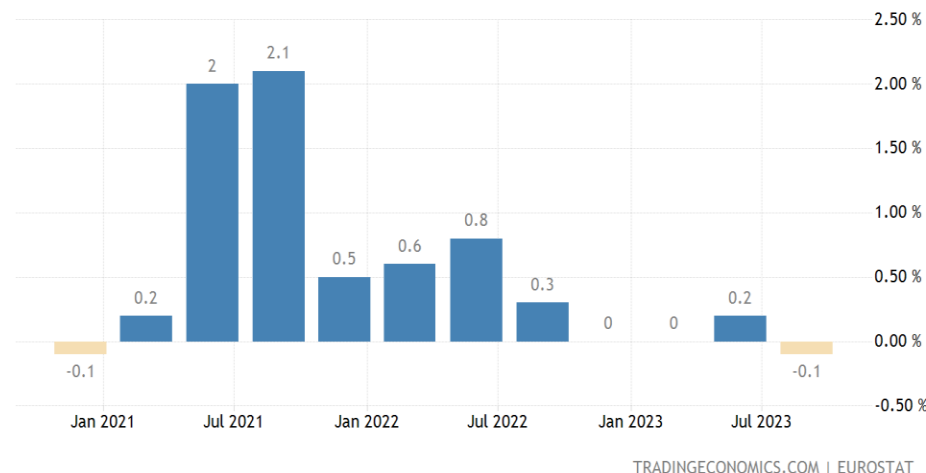


→



4. 7～9月期のユーロ圏GDPはマイナス成長

- ①7～9月期のユーロ圏GDP(速報)は前期比(右上図)▲0.1%。前年比(右下図)は+0.1%と低い伸び。
- ②前期比で独▲0.1%、仏+0.1%、伊0.0%、スペイン+0.3%、ポルトガル▲0.2%、オーストリア▲0.6%、ベルギー+0.5%。
- ③前年比で独▲0.4%、仏+0.7%、伊0.0%、スペイン+1.8%、ポルトガル+1.9%、オーストリア▲1.2%、ベルギー+1.5%。
- ④BREXITした英国は前期比0.0%、前年比+0.6%。

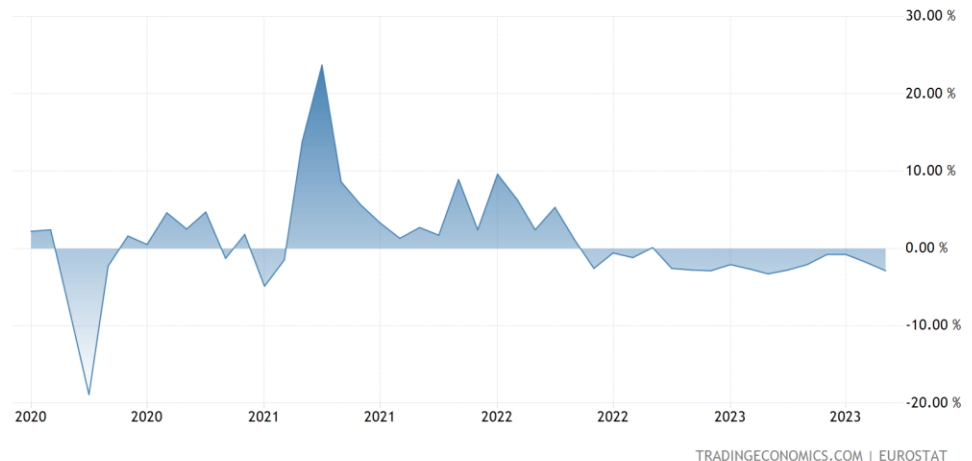
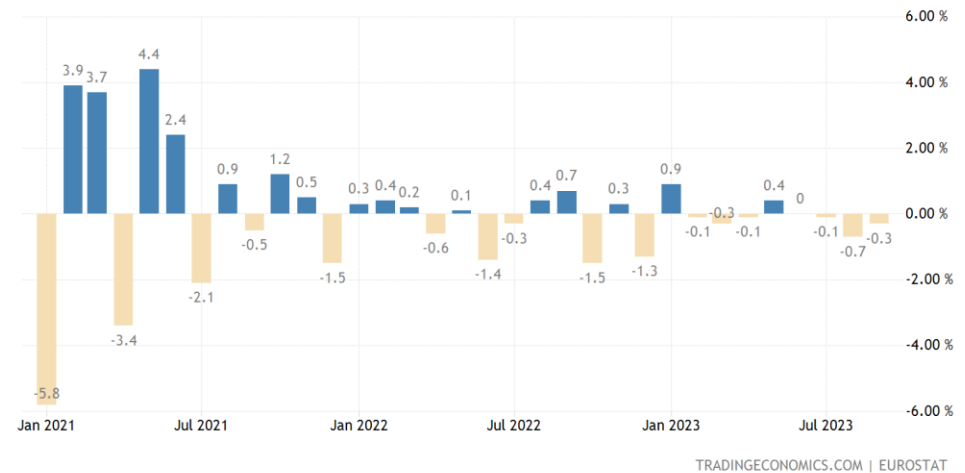


5. ユーロ圏小売売上高(数量)の減少が続く

①9月のユーロ圏小売売上高(数量ベース、季調済)は前月比▲0.3%(右上図)、前年比(右下図)は▲2.9%と減少幅が更に拡大。インフレによる実質所得の減少と金利上昇が消費を抑制。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ+1.4%、非食料製品▲1.9%(うち通信販売・インターネット▲1.9%)、自動車燃料▲0.9%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲1.0%、非食料製品▲3.4%(うち通信販売・インターネット▲4.2%)、自動車燃料▲7.5%。

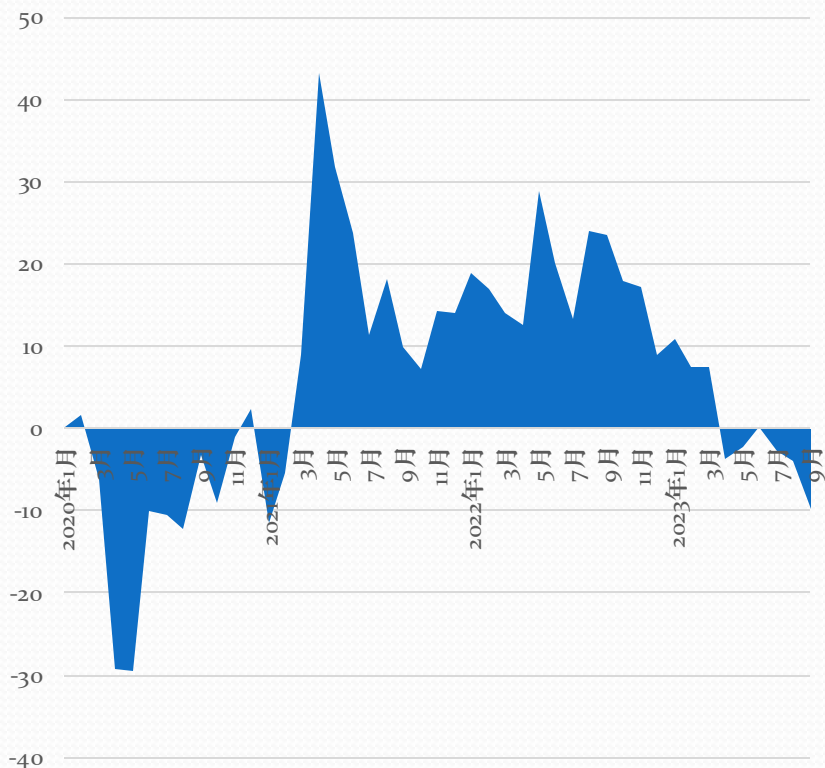


6. ユーロ圏は輸出、輸入ともに大きく減少

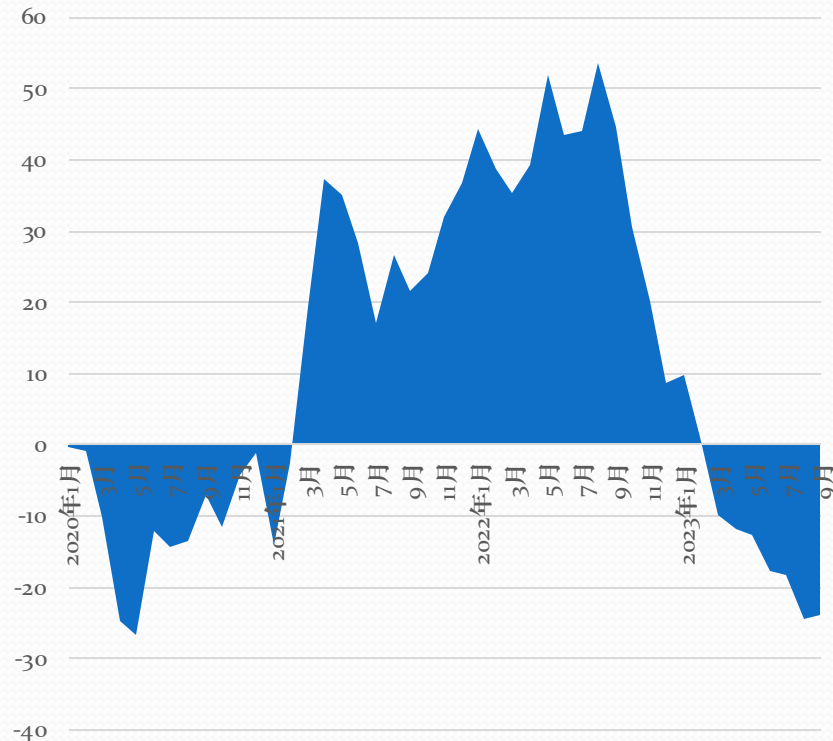
①9月の輸出の伸びは▲9.3%と3ヶ月連続の減少

②9月の輸入の伸びは前年比▲23.9%

ユーロ圏の輸出の推移(前年比、%)



ユーロ圏の輸入の推移(前年比、%)



7. ユーロ圏鉱工業生産は一段と悪化

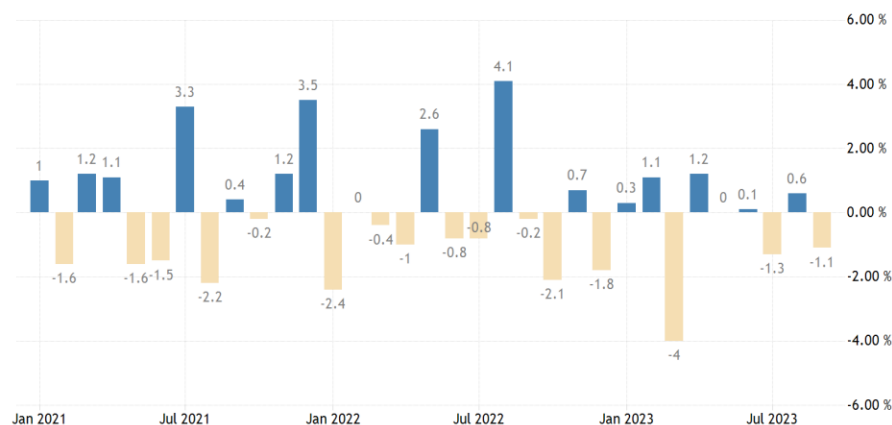
①9月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)は▲1.1%、前年比(右下図)は▲6.9%と7ヶ月連続で前年を下回るなど、一段と悪化。

②項目別の前月比は中間財▲0.3%、エネルギー▲1.3%、資本財+0.3%、耐久消費財▲2.1%、非耐久消費財▲2.1%。

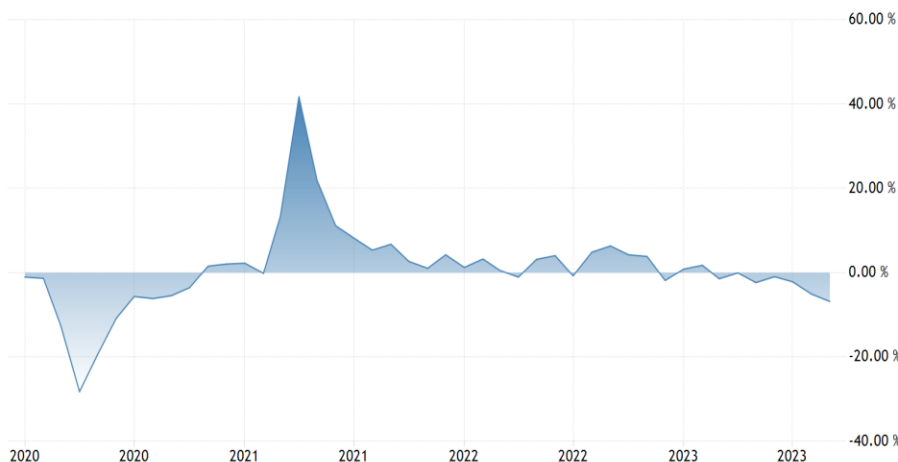
③前年比では中間財▲4.5%、エネルギー▲5.8%、資本財▲9.5%、耐久消費財▲8.1%、非耐久消費財▲6.7%。

④国別の前月比ではドイツ▲1.6%、仏▲0.5%、スペイン+1.0%、ポルトガル▲3.0%、オランダ▲0.3%、デンマーク+1.1%、オーストリア▲2.2%、アイルランド▲2.9%。

⑤前年比ではドイツ▲4.4%、仏0.0%、スペイン▲1.0%、ポルトガル▲5.6%、オランダ▲9.4%、デンマーク+2.8%、オーストリア▲3.6%、アイルランド▲27.2%



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

8. ユーロ圏の失業率は下げ止まりの様相

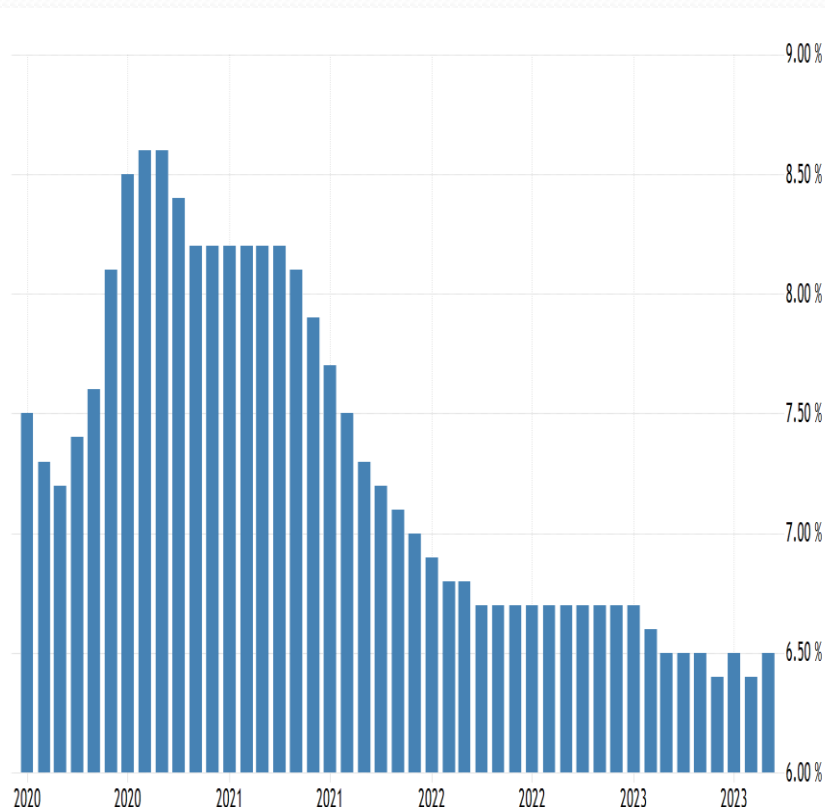
①9月のユーロ圏失業率(右図)は6.5%と前月比+0.1ポイントの上昇、前年同月より▲0.2ポイントの低下。

②最低はチェコの2.7%、最高はスペインの12.0%。

③前年9月との比較で独は3.1%→3.0%、伊8.0%→7.4%、オランダ3.8%→3.7%、スペイン12.9%→12.0%、アイルランド4.4%→4.2%に低下

④一方、仏7.1%→7.3%、デンマーク4.6%→4.8%、ベルギー5.4%→5.6%、ポルトガル6.1%→6.5%、オーストリア5.2%→5.5%に上昇。

⑤英国の9月の失業率は4.2%で4ヶ月連続変わらず(英国統計局)。

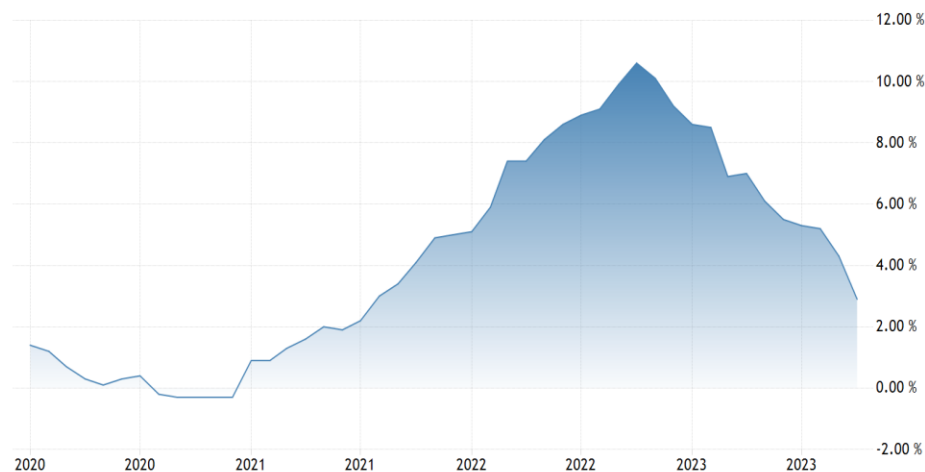


9. ユーロ圏のコアインフレ率は高止まり

①10月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右上図)は+2.9%と前月の伸びより▲1.4ポイントと大きく低下。前月比は+0.1%。

②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比(右下図)は▲0.3ポイント低下して+4.2%。前月比は+0.2%。

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは8月+9.7%→9月+8.8%→10月+7.4%。エネルギーは▲3.3%→▲4.6%→▲11.2%。非エネルギー工業製品は+4.7%→+4.1%→+3.5%。サービスは+5.5%→+4.7%→+4.6%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

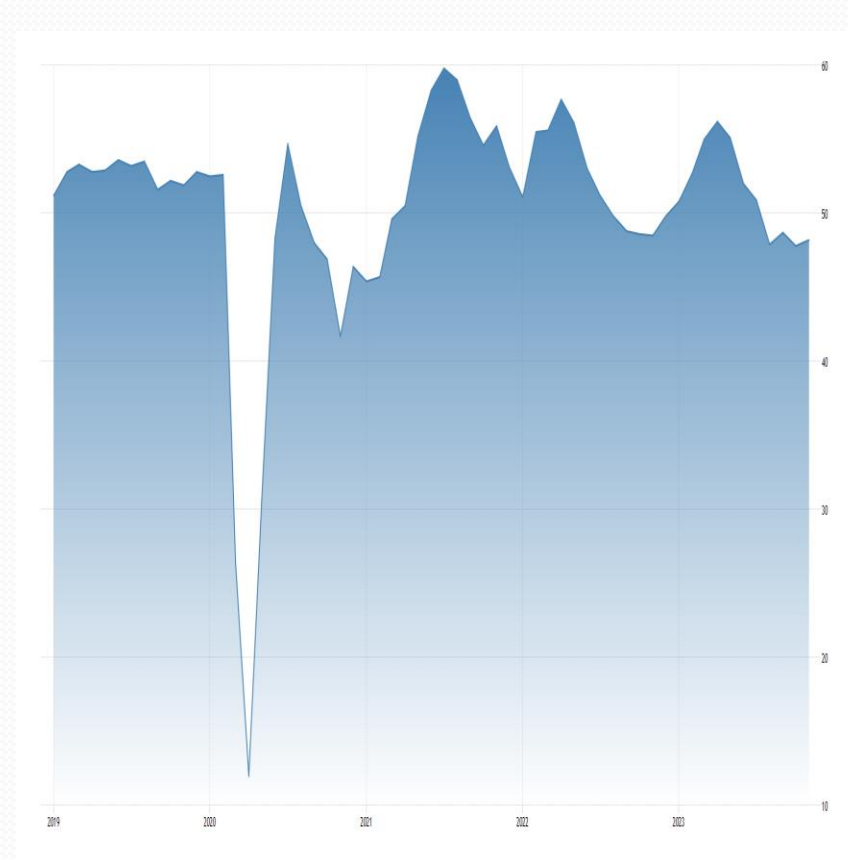
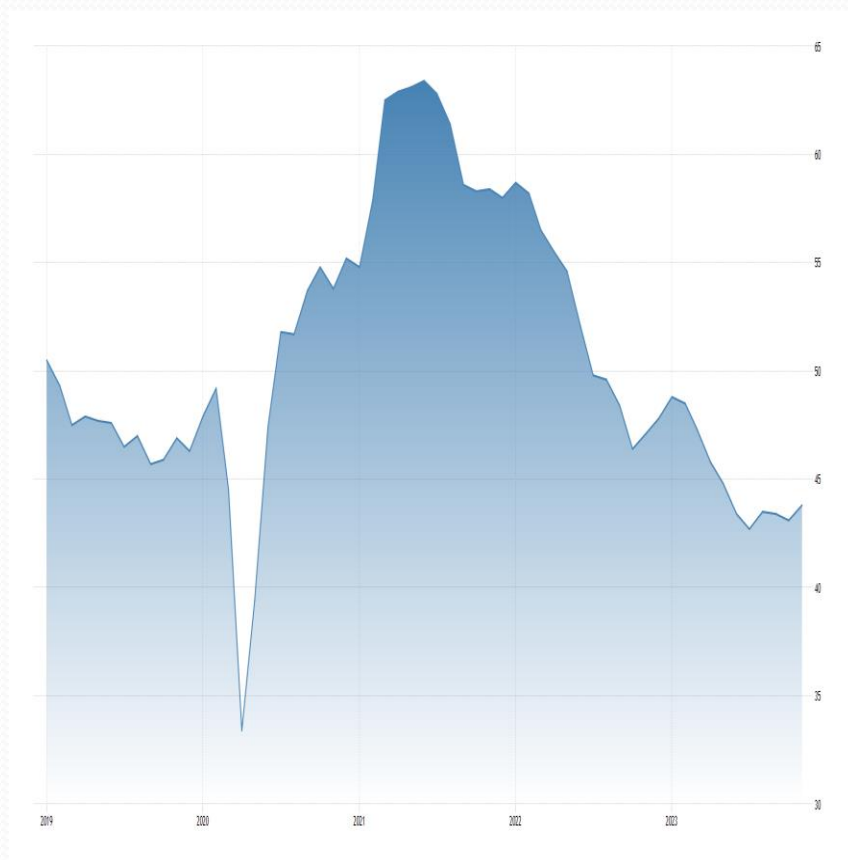


TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

10. ユーロ圏PMIは50以下の低迷続く

①製造業PMIは10月43.1→11月43.8

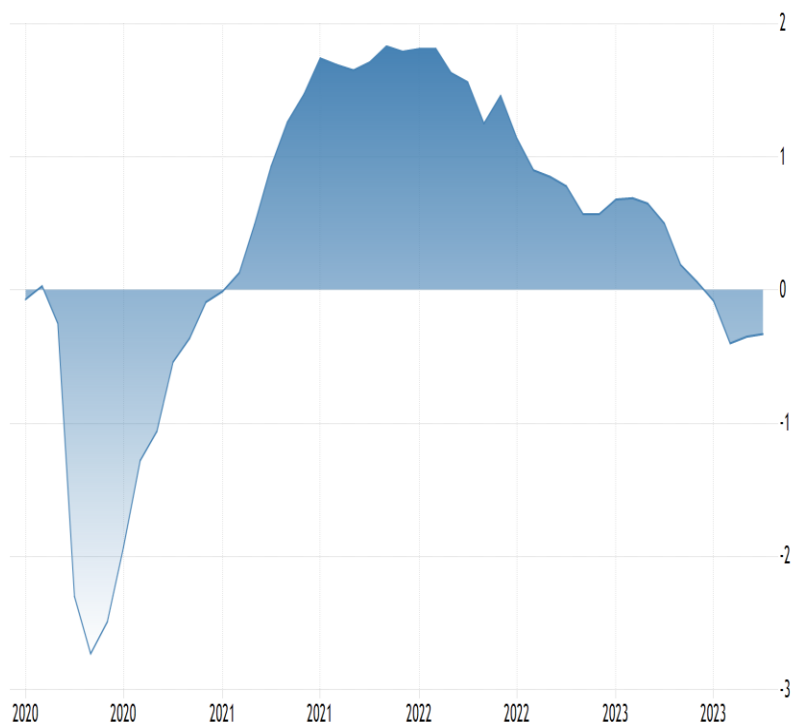
②サービス業PMIは10月47.8→11月48.2



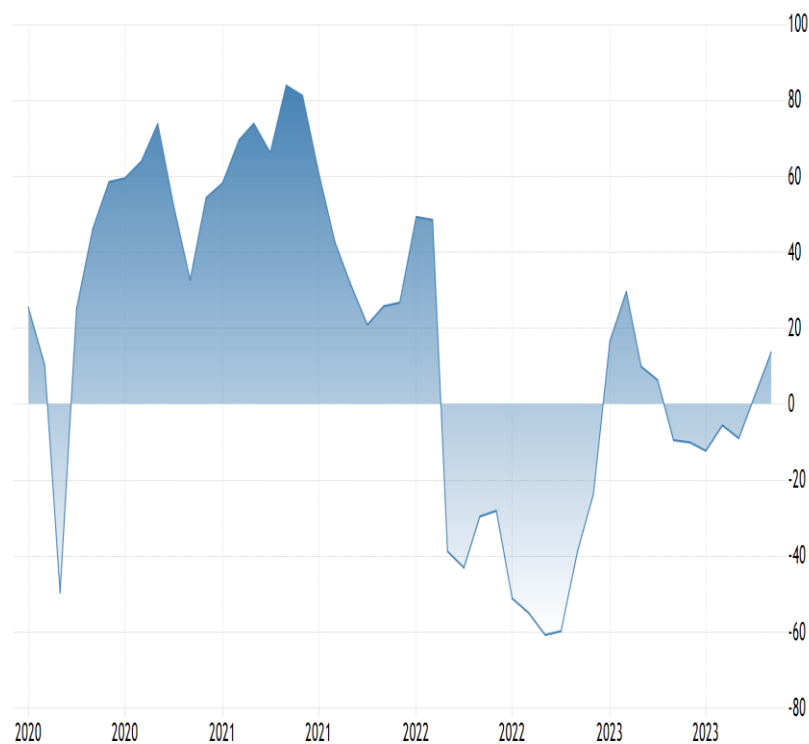
11. ユーロ圏景況感指数は底打ちか

①10月のユーロ圏業況指数(出所:EU委員会)は▲0.33と4ヶ月連続のマイナス。

②11月のユーロ圏ZEW景況感指数は前月比+11.5ポイント改善して+13.8のプラス。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROPEAN COMMISSION



TRADINGECONOMICS.COM | CENTRE FOR EUROPEAN ECONOMIC RESEARCH (ZEW)

12. ユーロ圏消費者信頼感指数はやや改善

11月のユーロ圏消費者信頼感指数(右図)は前月より+0.9ポイント改善して▲16.9。



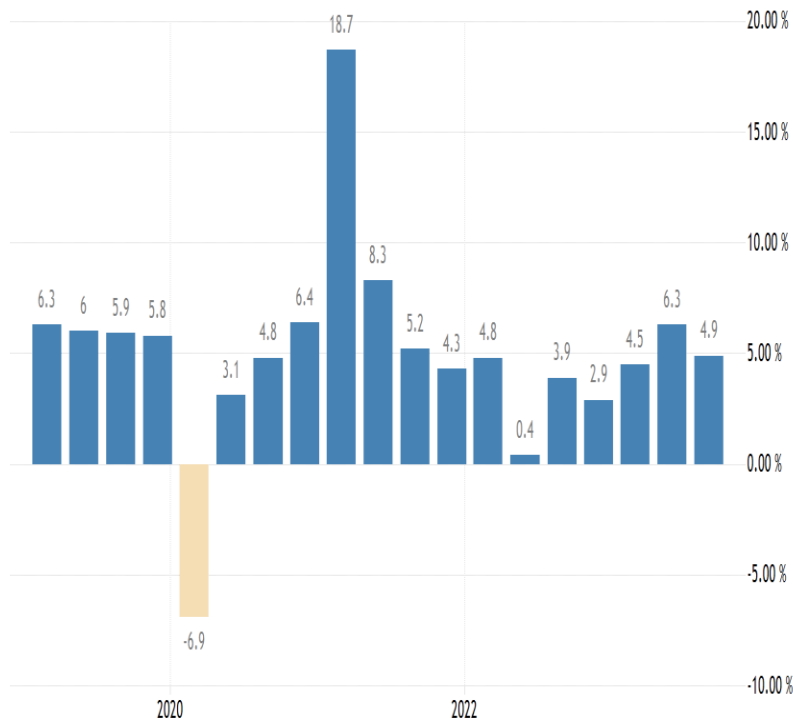
Ⅲ 中国経済

(中国国家统计局のホームページは習近平国家主席のニュースを統計より優先する傾向。習近平思想教育の強化と個人崇拝のプロパガンダを推進している)

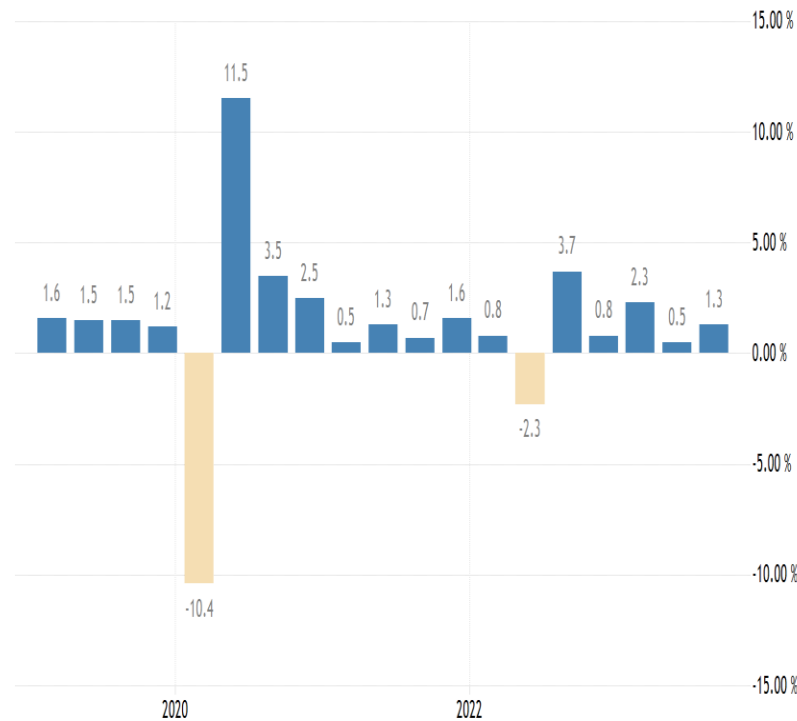
1. 中国のGDPは今年の政府目標5%前後を維持

①前年比は+6.3%から4.9%に減速

②前期比は+0.5%から+1.3%に加速



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



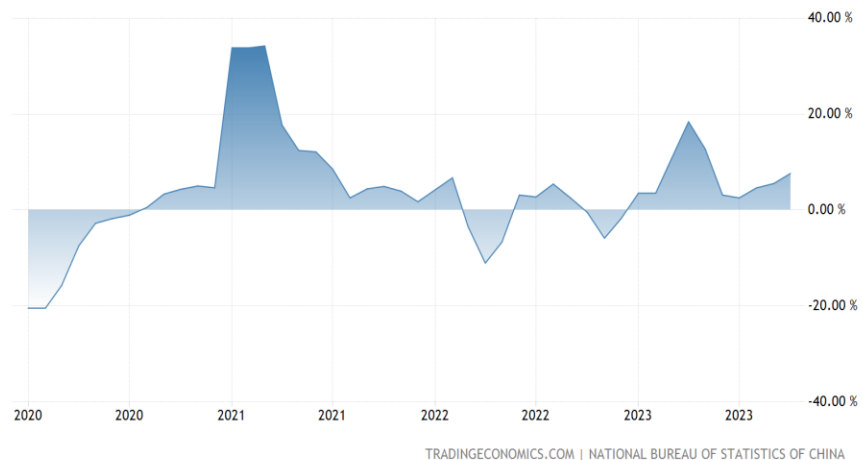
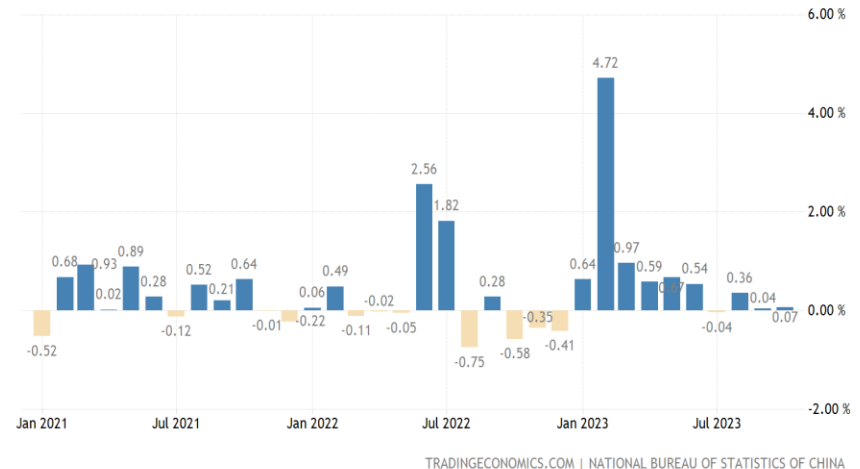
TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

2. 中国の消費は緩やかな回復が見られる

①10月の小売売上高の前年比(右下図)は+7.6%と伸びが高まる。前月比(右上図)は+0.07%。

②商品別の前年比は以下の通り

	8月	9月	10月
通信機材	+8.5% →	+0.4% →	+14.6%
自動車	+1.1% →	+2.8% →	+11.4%
建設資材	▲11.4% →	▲8.2% →	▲4.8%
家具	+4.8% →	+0.5% →	+1.7%
家庭電器	▲2.9% →	▲2.3% →	+9.6%
宝飾品	+7.2% →	+7.7% →	+10.4%
化粧品	+9.7% →	+1.6% →	+1.1%
石油製品	+6.0% →	+8.9% →	+5.4%
服飾類	+4.5% →	+9.9% →	+7.5%
事務用品	▲8.4% →	▲13.6% →	+7.7%
医薬品	+3.7% →	+4.5% →	+8.2%
日用品	+1.5% →	+0.7% →	+4.4%
合計	+4.6% →	+5.5% →	+7.6%



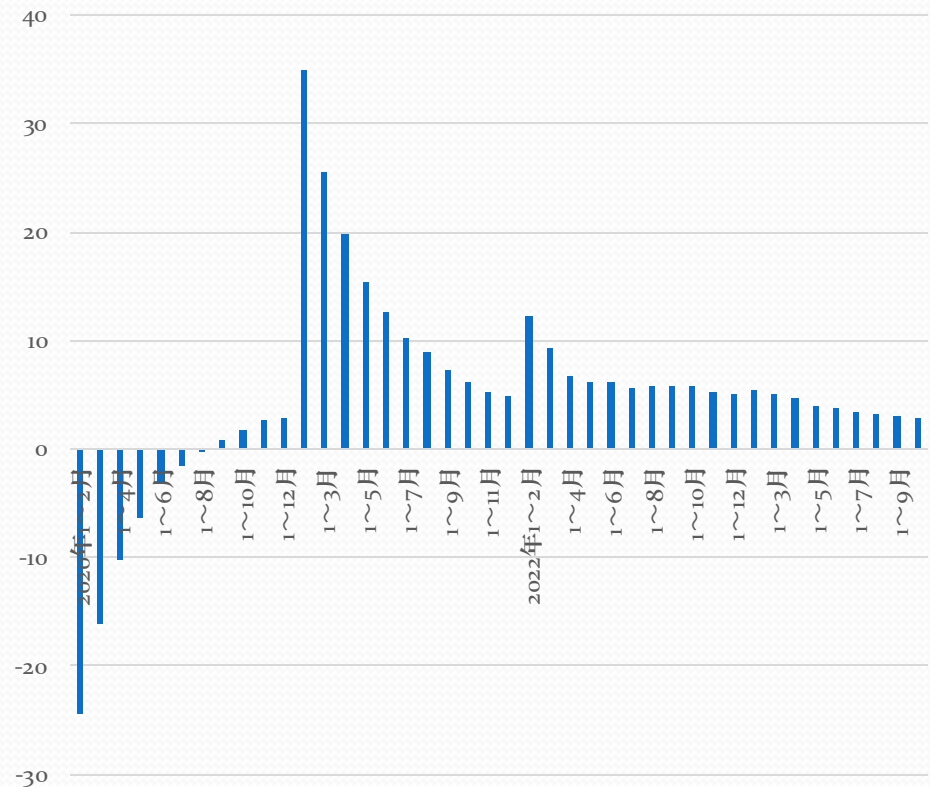
3. 中国の固定資産投資は減速傾向続く

①1～10月累計の固定資産投資は前年比+2.9%(右図)。

②民間投資は▲0.5%、公共投資の伸びは+6.7%。

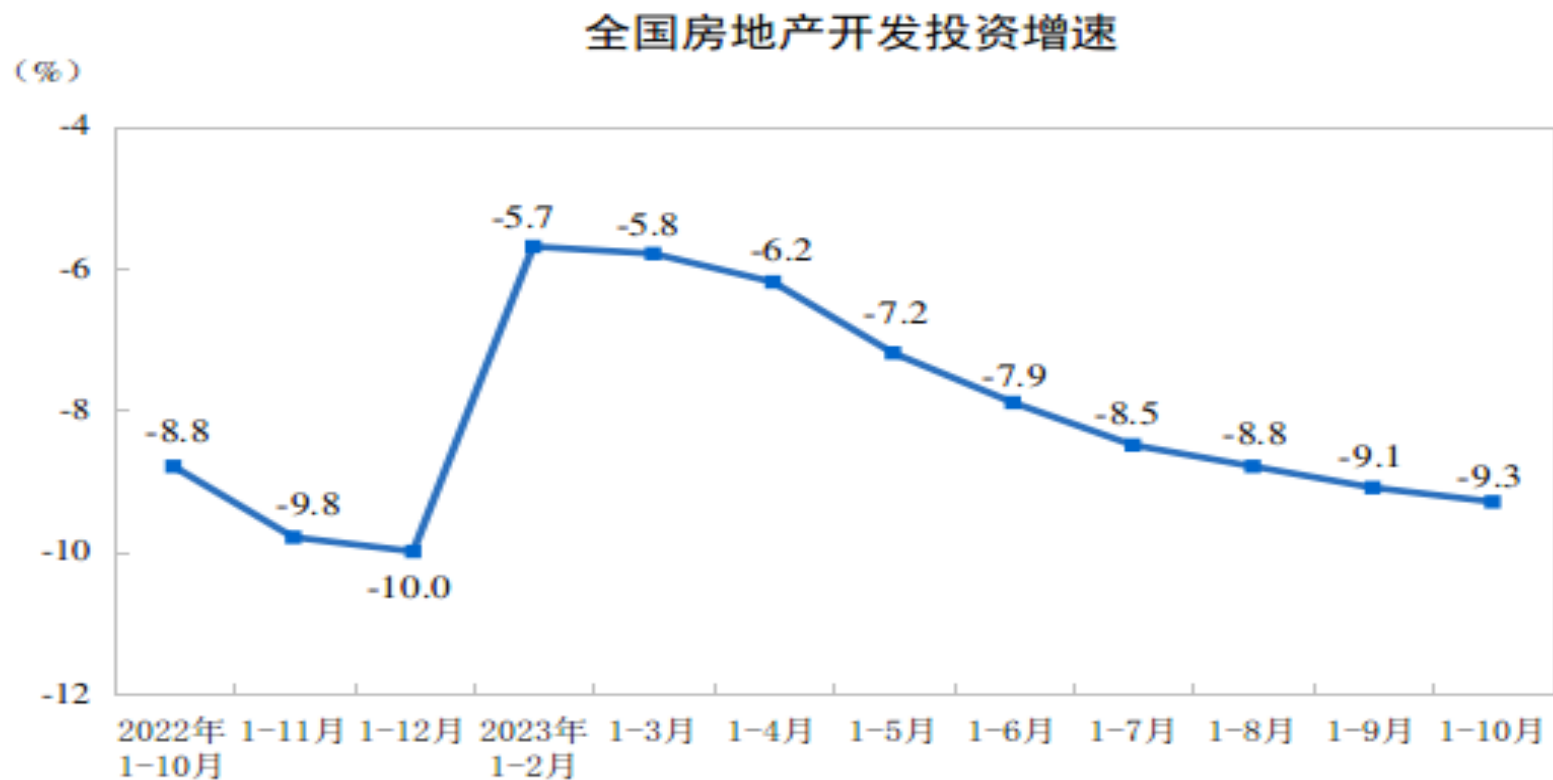
③鉱業は+1.4%。製造業+6.2%、うち食品製造+8.9%、紡績業▲1.2%、化学+13.4%、医薬+0.9%、非鉄金属+9.8%、金属製品+3.2%、自動車製造+18.7%、鉄道・船舶・航空+1.8%、電気機械+36.6%、コンピュータ・通信+9.6%、電力・ガス・水道+25.0%、鉄道運輸は+24.8%、道路運輸は0.0%、水利環境公共施設▲0.8%。

中国の固定資産投資(前年比、%)



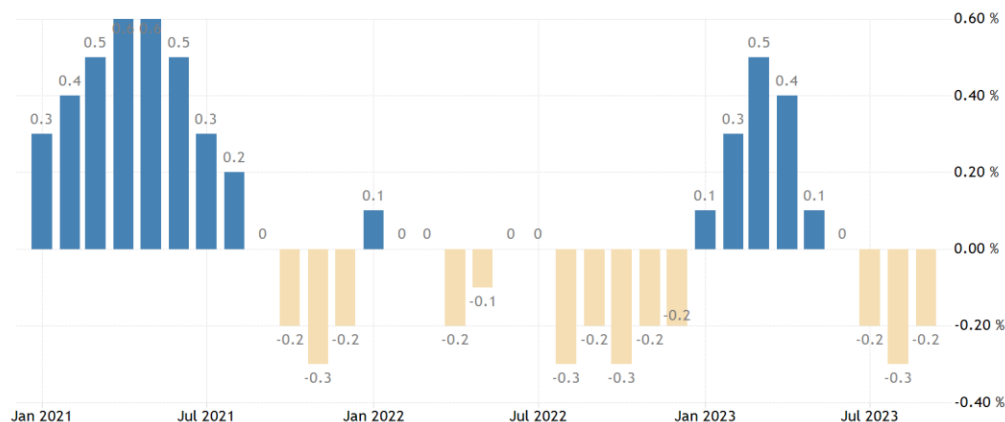
4. 中国の不動産投資は悪化傾向が続く

1～10月累計の不動産投資は前年比▲9.3%と年初から減少幅は拡大する一途。



5. 中国の住宅価格は前月比で56/70都市が下落

- ①10月の70都市新築住宅価格の前年比は▲0.1%(右下図)、前月比も▲0.2%(右上図)と低下。
- ②前月比で上昇した都市は11都市、**下落したのは56都市**、横ばいは3都市。
- ③都市別の住宅価格前年比は
北京+2.1%、大連▲3.5%
長春▲3.6%、上海+4.4%
南京▲0.8%、武漢+1.6%
広州▲2.0%、深圳▲2.8%
成都+5.6%、西安+3.6%



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

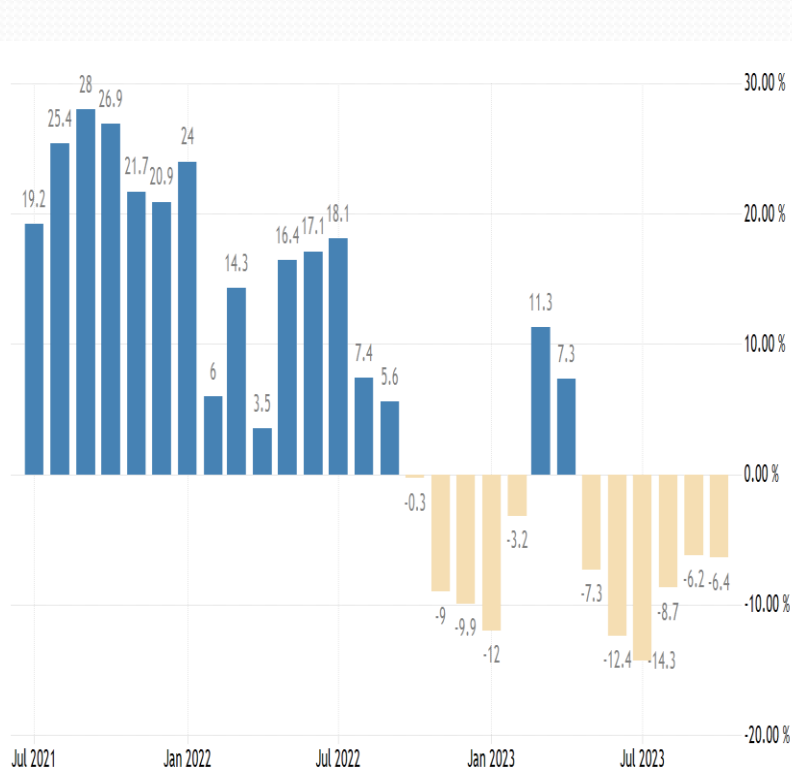


TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

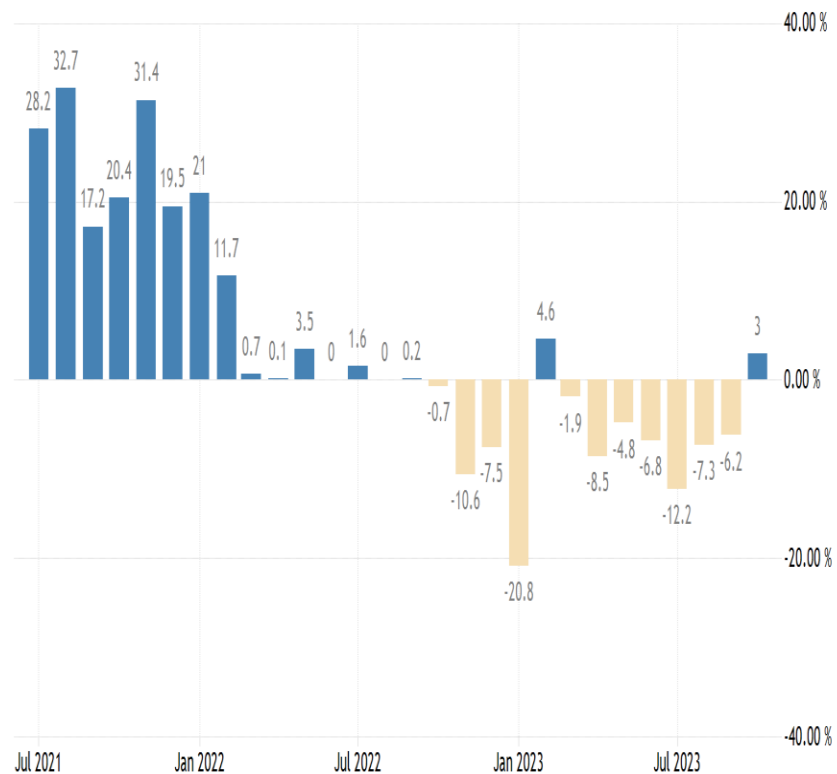
6. 中国の輸出は減少だが、輸入は増加に転じる

①10月輸出は前年比▲6.4%。米国向け▲8.2%、EU向け▲12.6%、ASEAN向け▲15.1%、日本向け▲13.0%。ロシア向け+17.0%、豪州向け+5.6%。

②10月の輸入は前年比+3.0%と8ヶ月ぶりの増加。資源関連の輸入増が寄与。



TRADINGECONOMICS.COM | GENERAL ADMINISTRATION OF CUSTOMS



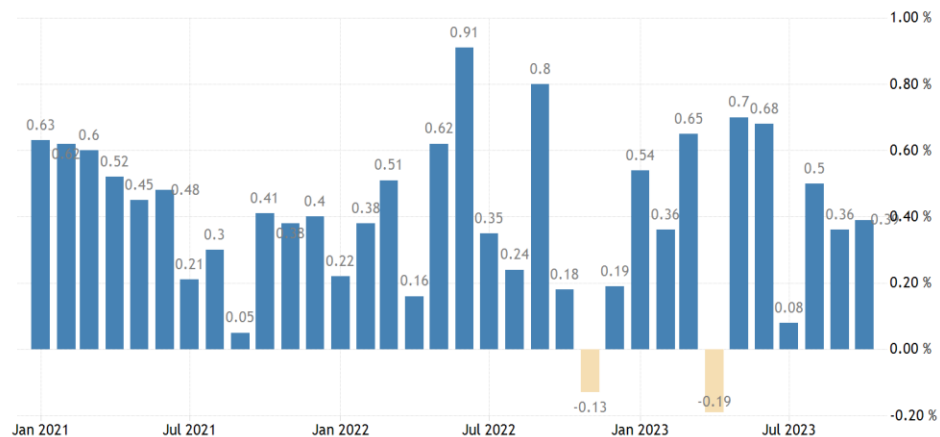
TRADINGECONOMICS.COM | GENERAL ADMINISTRATION OF CUSTOMS

7. 中国の鋳工業生産は緩やかな伸びが続く

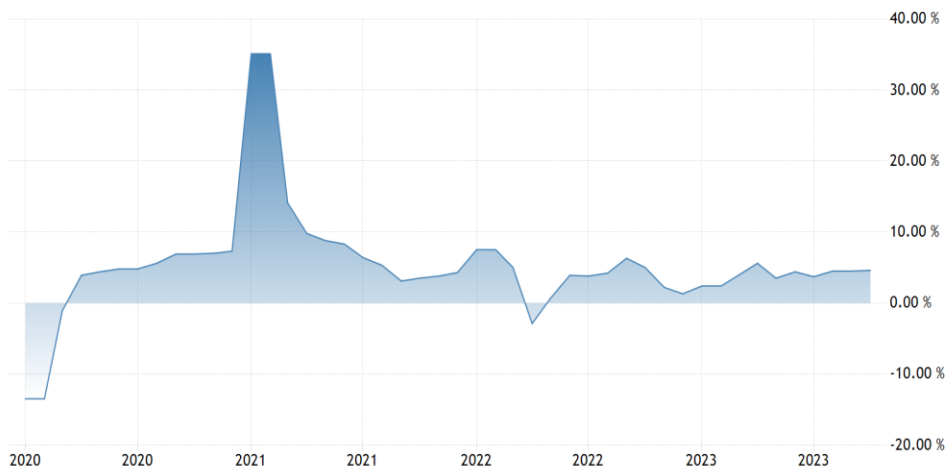
①10月の中国の鋳工業生産の前年比(右下図)は+4.6%の伸びと前月より+0.1ポイント伸びが高まる。前月比(右上図)は+0.39%。

②製造業の前年比は+5.1%。電気・ガス・水道は+1.5%、鋳業は+2.9%。

③食品製造は前年比+4.7%、紡績+2.0%、化学+12.1%、医薬製造▲10.4%、非金属鉱物製品▲1.1%、鉄鋼+7.3%、非鉄金属+12.5%、金属製品+5.5%、自動車+10.8%、鉄道・船舶・航空機+2.6%、電気機械+9.6%、コンピュータ・通信+4.8%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



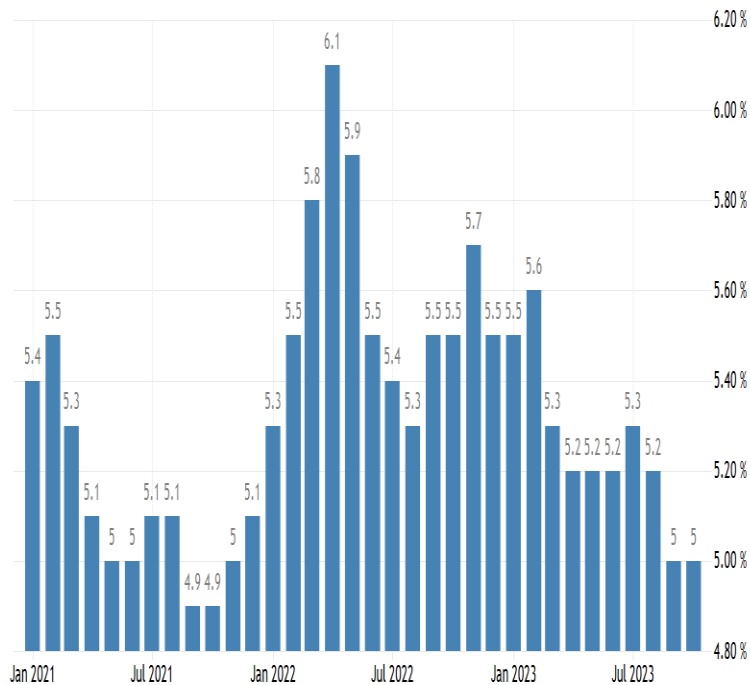
TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

8. 中国の失業率は5.0%で横ばい

10月の全国都市失業率（農民工は統計に含まれず）は前月比横ばいの5.0%（左図）。

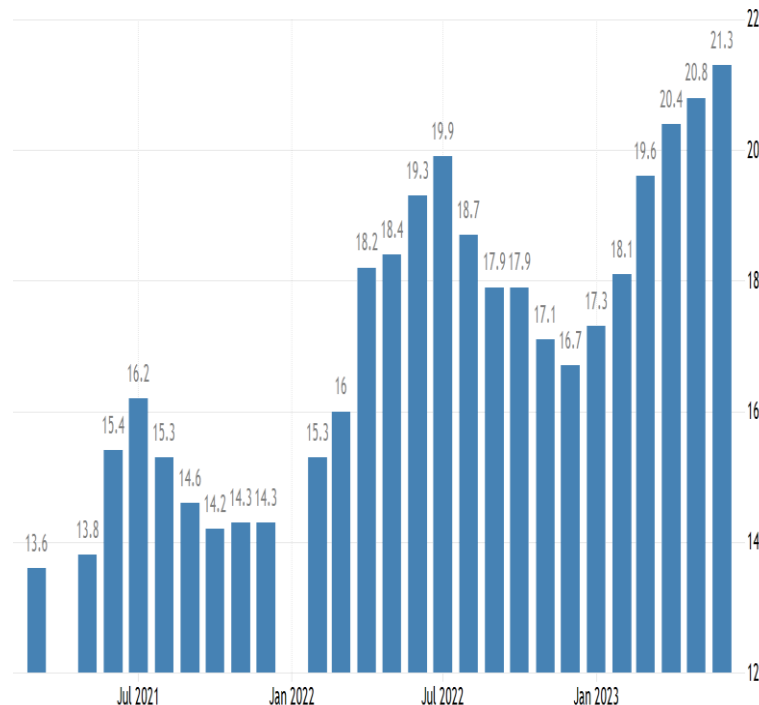
若者（16～24歳）の失業率は6月21.3%（右図）を最後に公表停止。都合の悪い統計は発表しない傾向。

①失業率（全国都市）の推移



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②若者失業率の推移（6月まで）

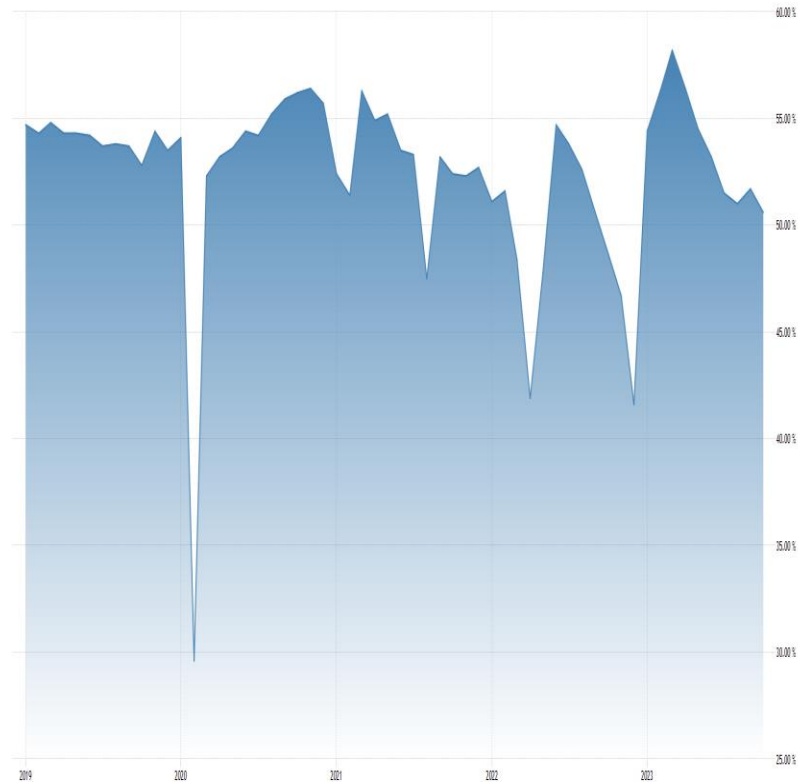
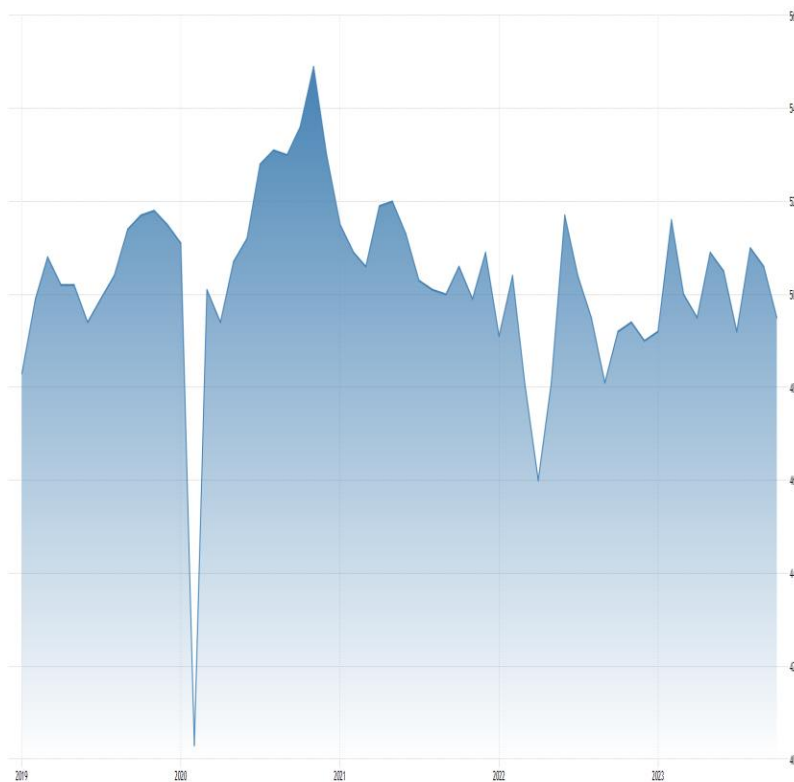


TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

9. 中国PMI指数の製造業は50を下回るなど不振

①10月製造業PMIは49.5と前月より
▲0.7ポイント低下し、50を下回る。

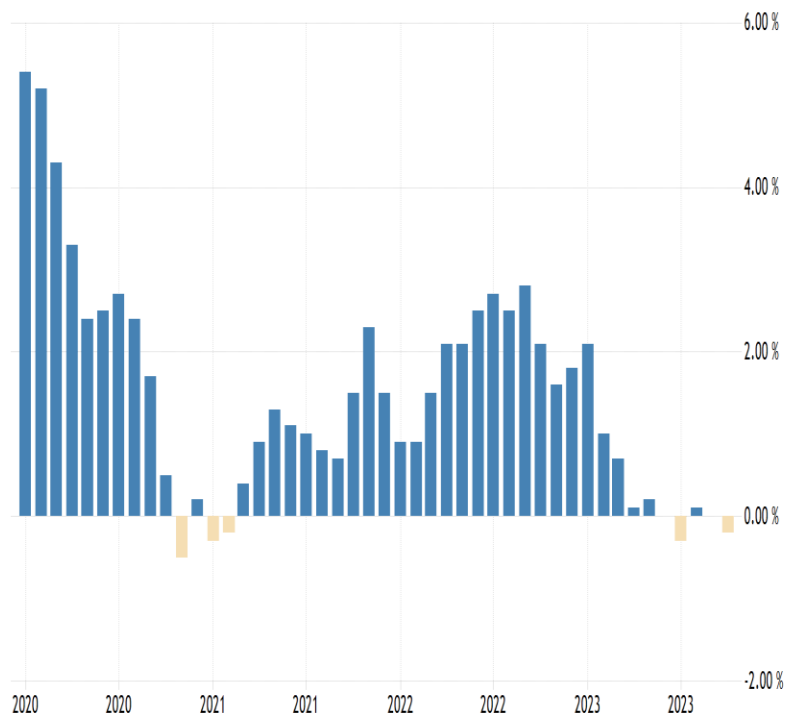
②10月非製造業PMIは50.6と前月より
▲1.1ポイント低下。



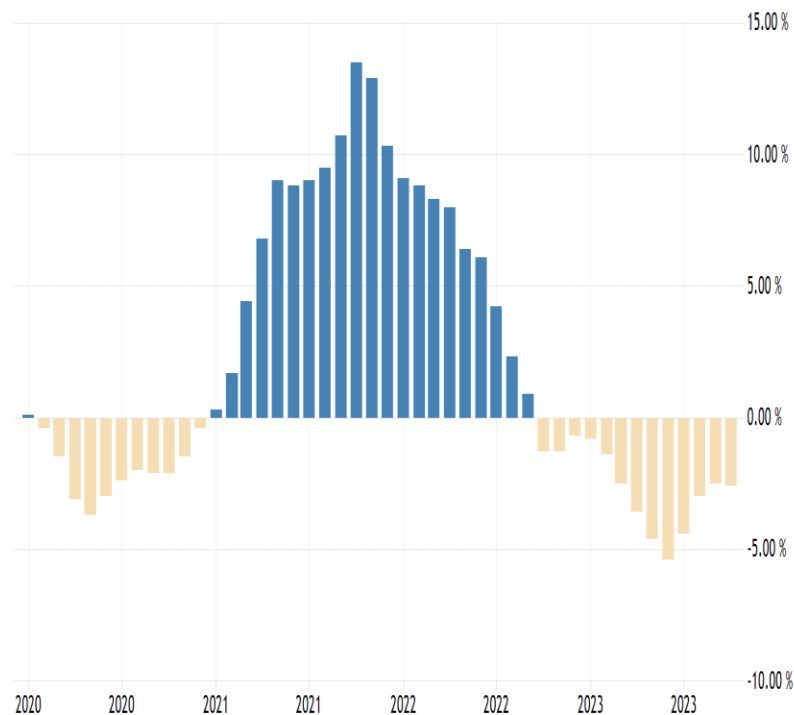
10. 中国の消費者物価、生産者物価共に下落

①10月の消費者物価は食料品価格下落の影響で前年比(左図)は▲0.2%のマイナスに再び転化。前月比は▲0.1%と弱い。

②10月の生産者物価の前年比(右図)は▲2.6%と前月より▲0.1ポイント低下。前月比は0.0%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



IV 日本經濟

1. 日銀はYCCを再修正し、長期金利1%超えを容認

- ①日銀は10月30～31日政策決定会合を開き、長短金利操作 (YCC=イールドカーブ・コントロール) の再修正を決めた。
- ②長期金利の目標を引き続きゼロ程度としつつ、その上限の目途を1%とする、と決めたが、今回は1%で指値オペを実施するとしていたので、1%超えも容認した形だ。
- ③長期国債以外の資産買入は現状維持
●ETFとJ-REITの買入はそれぞれ年間12兆円、1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、必要に応じて、買入を行う。
●CP等は2兆円の残高を維持、社債等については感染症拡大前と同程度のペースで買入を行い、買入残高を感染症拡大前の水準(約3兆円)へと徐々に戻していく。
- ④植田総裁は記者会見で物価目標の実現について、十分な確度をもって見通せる状況に至っておらず、マイナス金利解除が見込まれる状況に達していない、と述べた。重要なポイントは来年の春闘賃上げであると指摘している。
- ⑤展望レポートの見通しは下表の通り

経済・物価の見通し		
年度	実質GDP成長率	消費者物価指数 上昇率
2023	2.0% (1.3)	2.8% (2.5)
24	1.0 (1.2)	2.8 (1.9)
25	1.0 (1.0)	1.7 (1.6)

(注) 前年度比。政策委員見通しの中央値。カッコ内は前回。消費者物価指数は生鮮食品を除く

2. 7～9月期のGDPは内需、外需不振でマイナス成長

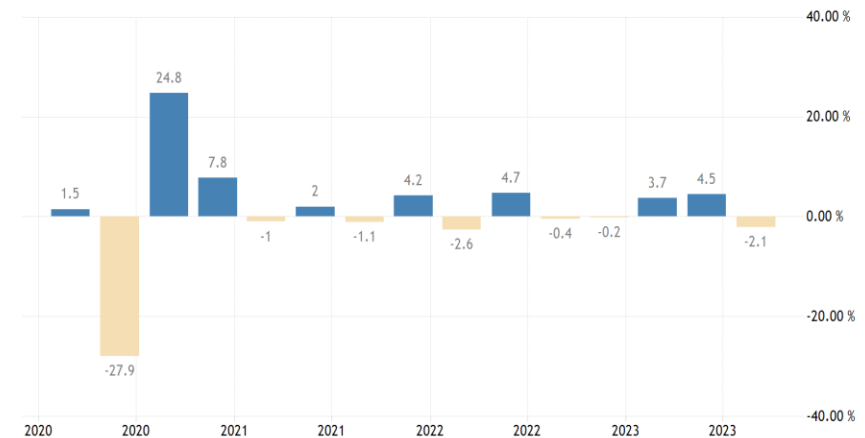
①7～9月期の実質GDP(1次速報値)は前期比▲0.5%、前期比年率▲2.1%(右上図)となった。内需の寄与度は▲0.4%、外需▲0.1%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+1.2%。

②名目GDPは前期比▲0.0%、前期比年率▲0.2%、前年比は+6.4%。GDPデフレーターは前期比+0.5%、前年比は+5.1%。

③需要項目別で実質民間最終消費支出は前期比▲0.0%(年率▲0.2%)、寄与度は▲0.0%。民間企業設備は前期比▲0.6%(年率▲2.5%)、寄与度は▲0.1%。民間住宅は前期比▲0.1%(年率▲0.3%)、寄与度は▲0.0%。民間在庫変動の寄与度▲0.3%。

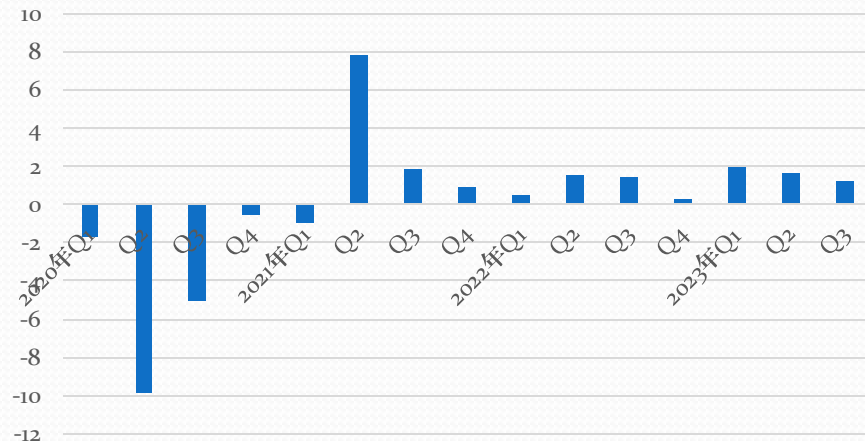
④政府最終消費は前期比+0.3%(年率+1.2%)、公的固定資本形成は前期比▲0.5%(年率▲2.0%)で、政府支出合計の寄与度は0.0%。

⑤輸出は前期比+0.5%(年率+2.1%)、寄与度は+0.1%、輸入は前期比+1.0%(年率+4.2%)、寄与度は▲0.2%。



TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

実質GDP(前年同期比%)



3. 景気動向指数(先行)は一進一退の動き

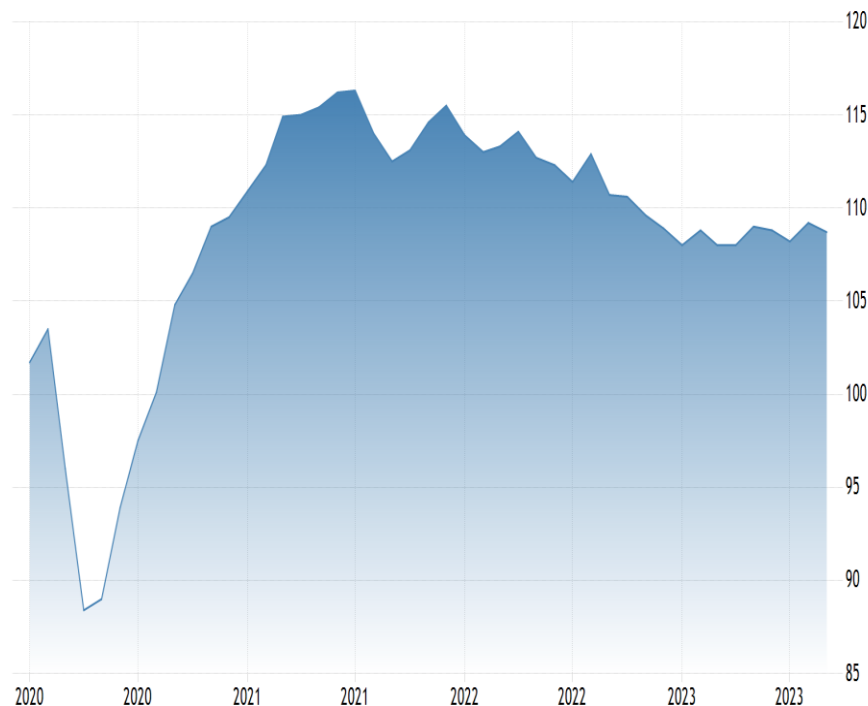
①9月の先行指数(右図)は108.7で前月比▲0.5ポイントと2ヶ月ぶりの下降。

②一致指数は114.7で前月比+0.1ポイントで、2ヶ月連続の上昇。

③遅行指数は105.7で前月比▲0.2ポイントの下降で2ヶ月ぶりの下降。

④内閣府の基調判断(一致指数)は「改善を示している」に据え置き。

⑤11月の月例経済報告の基調判断は前月の「景気は、緩やかに回復している」から「景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している」に下方修正。

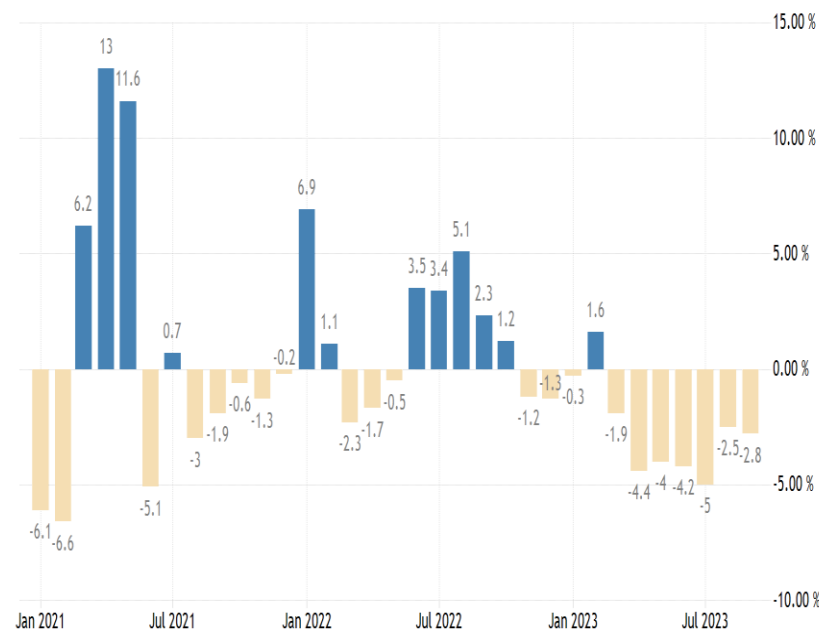
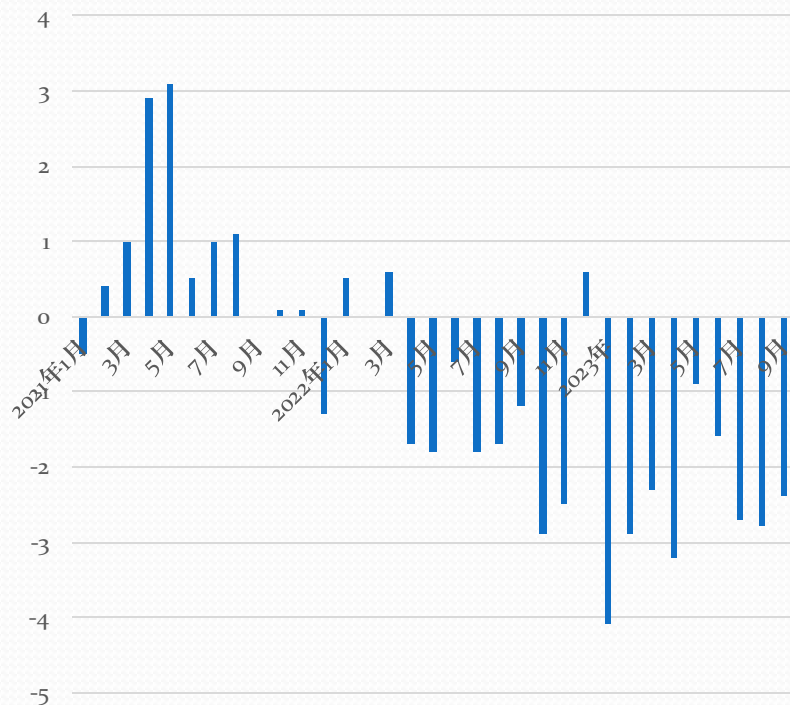


4. 実質賃金、実質消費共にマイナスが続く

(1) 9月の現金給与総額の前年比+1.2%、所定内給与は+1.5%、所定外給与+0.7%、特別給与▲6.0%。実質賃金の伸び(下図)▲2.4%。

(2) 9月の家計消費は前年比で名目+0.7%、実質は▲2.8%(下図)。費目別実質伸び率は交通・通信+12.4%、被服及び履物▲18.3%、家具・家事用品▲14.7%、住居費▲11.2%、教育▲9.7%、食料▲3.7%。

日本の実質賃金の伸び(前年比、%)



5. 機械受注(船舶・電力を除く民需)は足踏み

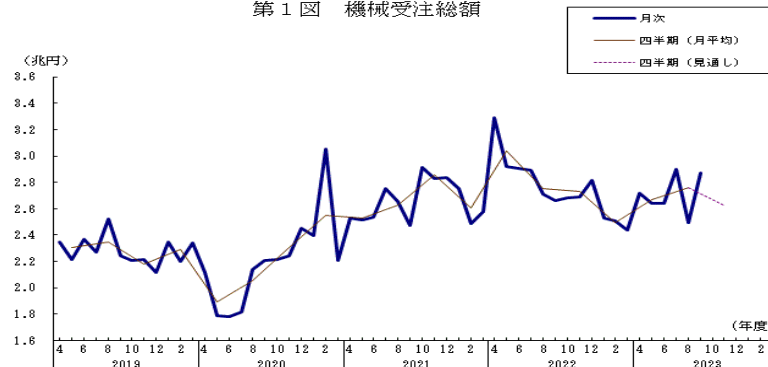
①民間設備投資の先行指標である9月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)の前月比は+1.4%の増加、前年比は▲2.2%の減少。7～9月の実績は前期比▲1.8%、10～12月見通しは+0.5%。

②9月の製造業受注は前月比▲1.8%、前年比は▲9.3%。前月比で17業種中、石油製品・石炭製品、非鉄金属など12業種が増加、パルプ・紙・紙加工品、化学工業など5業種が減少

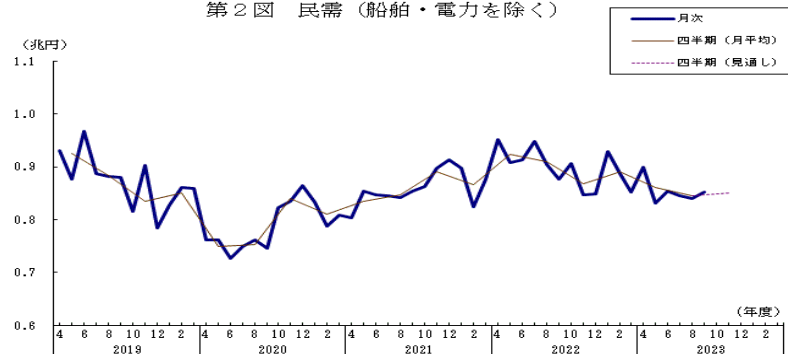
③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比+5.7%、前年比+4.3%。前月比で12業種中、増加したのはリース業、金融業・保険業など5業種で、不動産業、卸売業・小売業など7業種が減少。

④内閣府の基調判断は「足踏みがみられる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



(備考)

1. 四半期(月平均)は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば7～9月の月平均値は8月の位置に表示)。

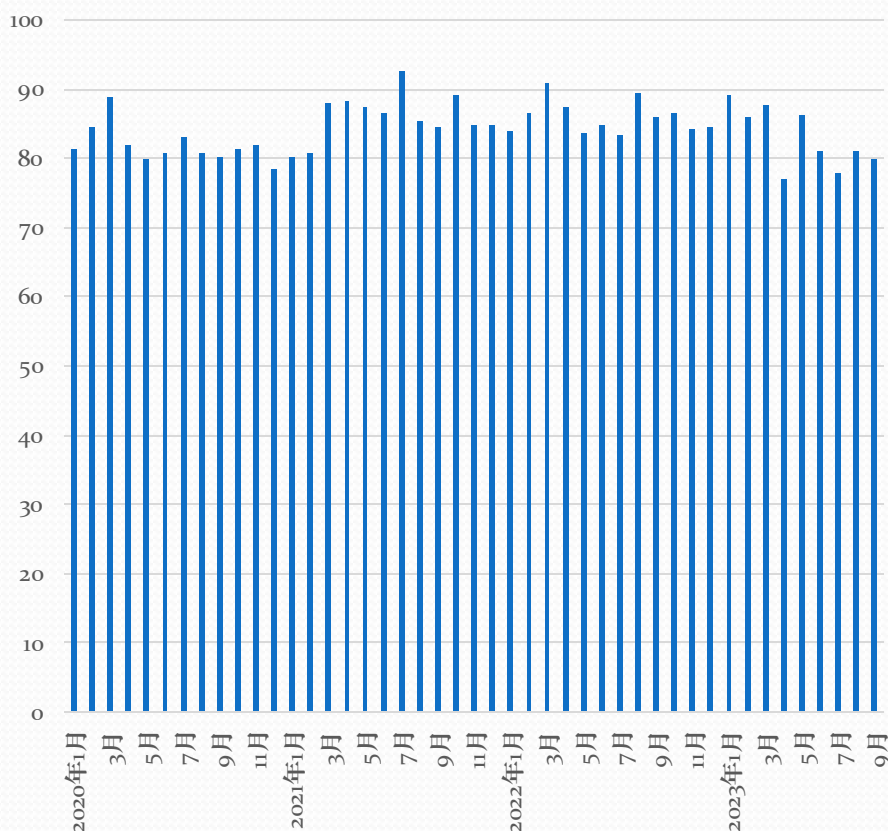
2. 「2023年10～12月(見通し)」の計数は、「見通し調査(2023年9月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

6. 住宅着工戸数は減少傾向が続く

①9月の住宅着工戸数は68,941戸で前年比は▲6.8%と4ヶ月連続の減少。季調済年率では80万戸(右図)、前月比は▲1.5%の減少。

②持家は19,527戸、前年比は▲12.3%と22ヶ月連続の減少。貸家は29,735戸、前年比は▲2.9%と2ヶ月連続の減少。分譲住宅は19,266戸、前年比は▲7.3%と4ヶ月連続の減少。分譲マンションは8,148戸、前年比は▲2.8%と3ヶ月連続の減少。分譲一戸建て住宅は11,014戸、前年比は▲10.4%で11ヶ月連続の減少。

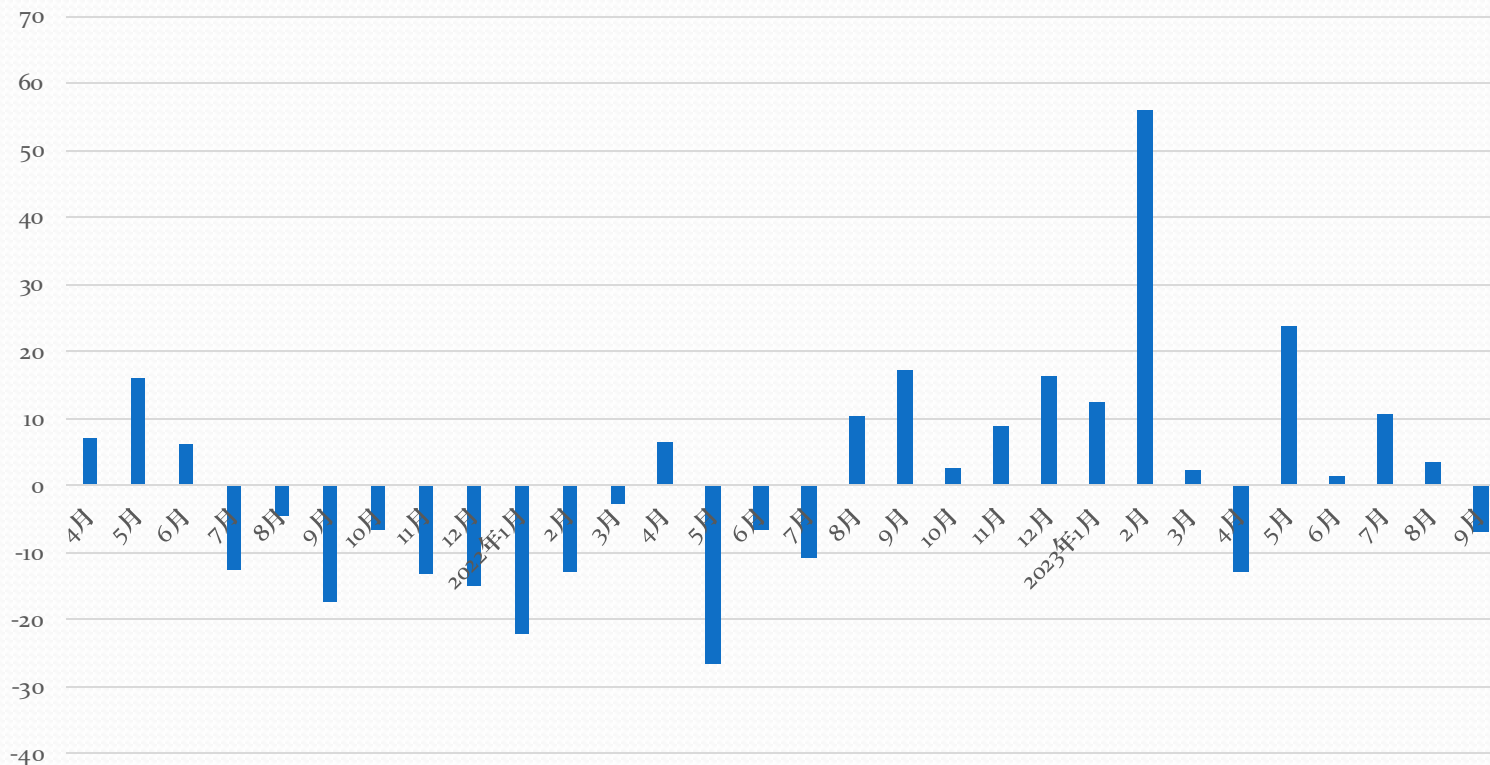
日本の新設住宅着工戸数(季調済、万戸)



7. 公共工事受注は5ヶ月ぶりに減少

①9月の公共工事受注は前年比▲7.1%。②工事分類別では土木工事は▲15.1%、建築工事・建築設備工事+2.6%、機械装置等工事+28.6%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



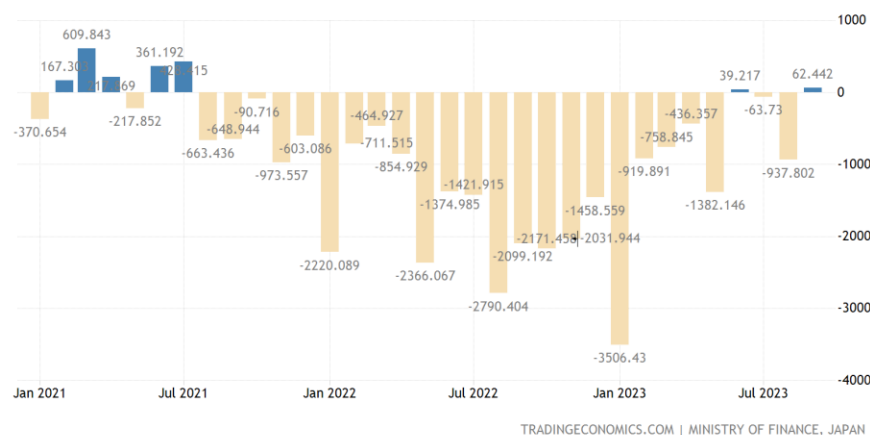
8. アジア向け輸出減と輸入全般の弱さが目立つ

①10月の貿易収支は前年比+1兆5,434億円改善して▲6,625億円(右上図)の赤字に縮小。輸出は前年比+1.6%、金額は9兆1,471億円。数量(右下図)前年比は▲3.3%、価格前年比は+5.1%。輸入は前年比▲12.5%、金額は9兆8,096億円。数量の前年比▲3.2%、価格の前年比▲9.6%。

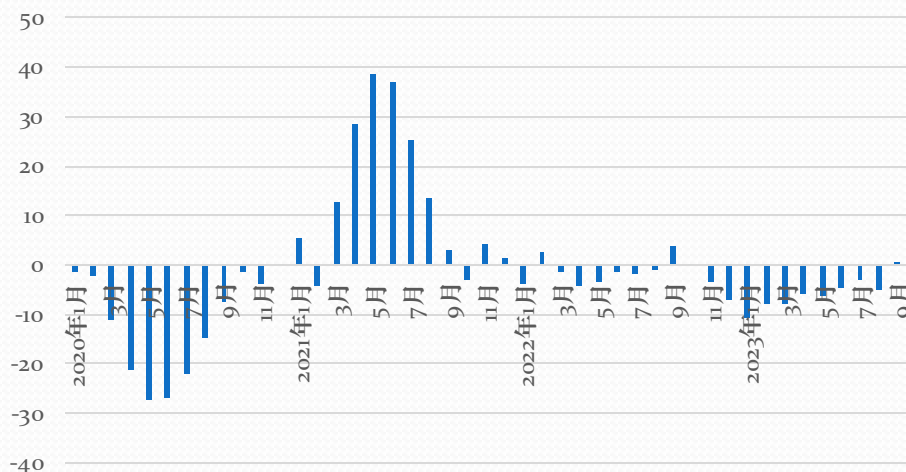
②地域別輸出でアジア向けは▲5.3%、うち中国▲4.0%、台湾▲13.8%、韓国▲8.1%、シンガポール▲17.5%、タイ▲11.8%が減少。香港+9.2%、インド+8.3%はプラス。米国+8.4%、西欧+9.2%、中東+18.8%。ロシア▲60.7%。

④商品別輸出は自動車+35.4%、建設用・鉱山用機械+14.0%、半導体等製造装置▲18.2%、科学光学機器▲15.3%、半導体等電子部品▲3.3%。

⑤商品別輸入は鉱物性燃料▲27.9%(原油及び粗油▲16.8%、LNG▲37.6%、石炭▲45.7%)、医薬品▲22.1%、非鉄金属▲23.8%、非鉄金属鉱▲38.3%、半導体等電子部品▲14.0%、電算機類▲25.9%、通信機+31.3%。



日本の輸出数量の伸び(前年比、%)



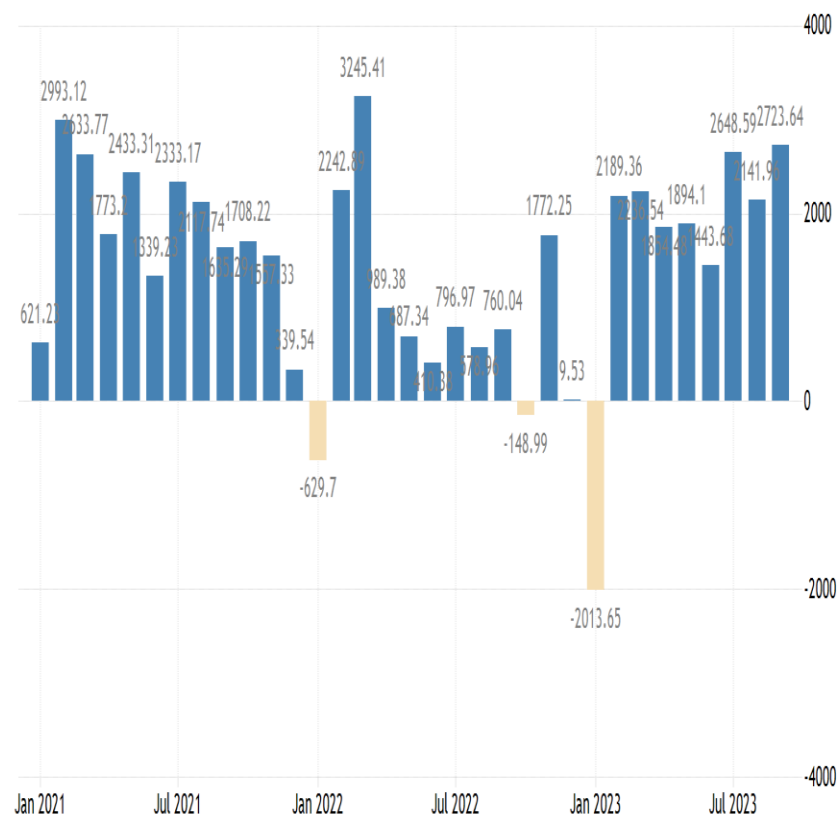
9. 貿易収支の黒字転化で経常黒字幅が拡大

①9月の経常収支(右図)は前年比+1兆9,636億円黒字幅が拡大して、+2兆7,236億円の黒字。

②貿易収支は前年比+2兆1,504億円改善して+3,412億円の黒字に転化。輸出は前年比+2.6%の9兆601億円、輸入は前年比▲18.1%の8兆7,189億円

③サービス収支は+447億円改善して▲2,878億円の赤字に縮小。

④第一次所得収支は直接投資収益の黒字幅縮小により、▲348億円黒字幅が縮小して+3兆764億円の黒字。第二次所得収支は▲1,967億円赤字幅が拡大して▲4,062億円の赤字。



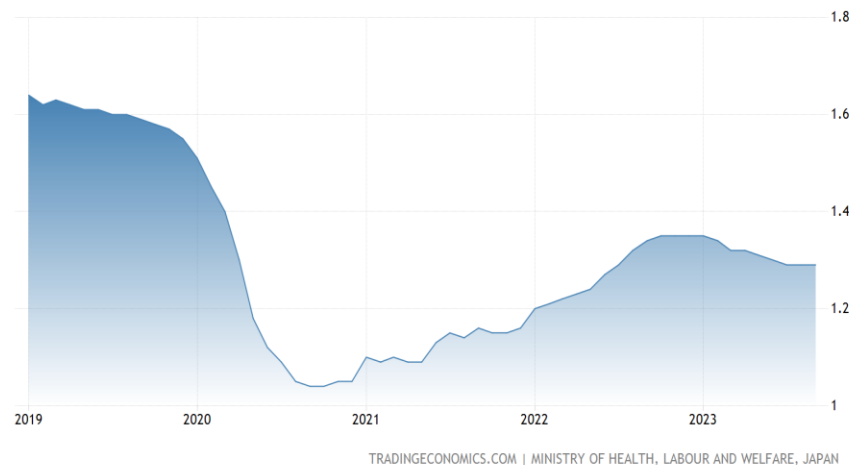
10. 日本の労働市場は緩やかな回復続く

①9月の就業者数は原系列で6,787万人、前年比+21万人。季調済(右上図)は6,756万人で前月比+6万人の増加。原系列で雇用者数は6,124万人で前年比+54万人の増加。正規は3,633万人で前年比+44万人、非正規は2,141万人で前年比+8万人。自営業主・家族従業者は635万人で前年比▲29万人。

②産業別就業者の前年比では宿泊業・飲食サービス業+24万人、建設業+11万人、生活関連サービス業・娯楽業+11万人などが増加。製造業▲21万人、教育・学習支援業▲8万人、金融業・保険業▲8万人、不動産業・物品賃貸業▲11万人などが減少。

③完全失業者数182万人で前年比▲5万人。完全失業率は2.6%で前月より▲0.1ポイント低下した。

④有効求人倍率は1.29倍で前月と変わらず(右下図)。



11. 鉱工業生産は自動車を除き全般に低迷が続く

①9月の鉱工業生産指数(確報)は103.6で、前月比+0.5%と3ヶ月ぶりの上昇、前年比は▲4.4%と3ヶ月連続の低下(右下図)。

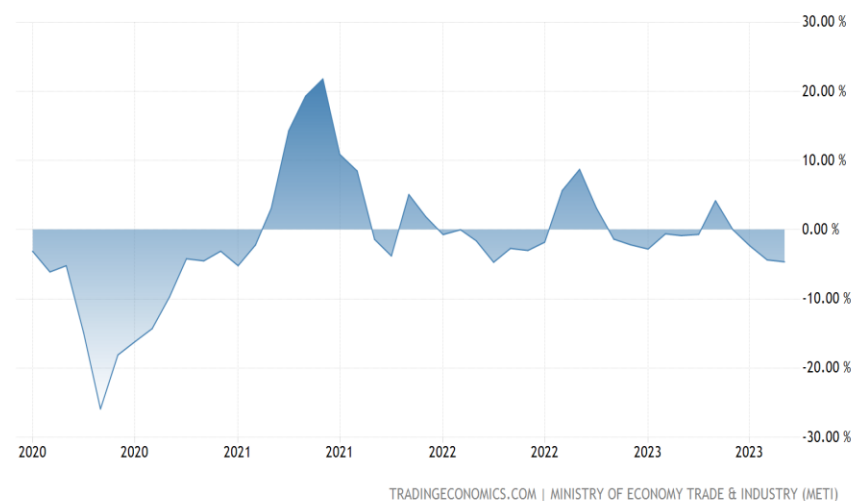
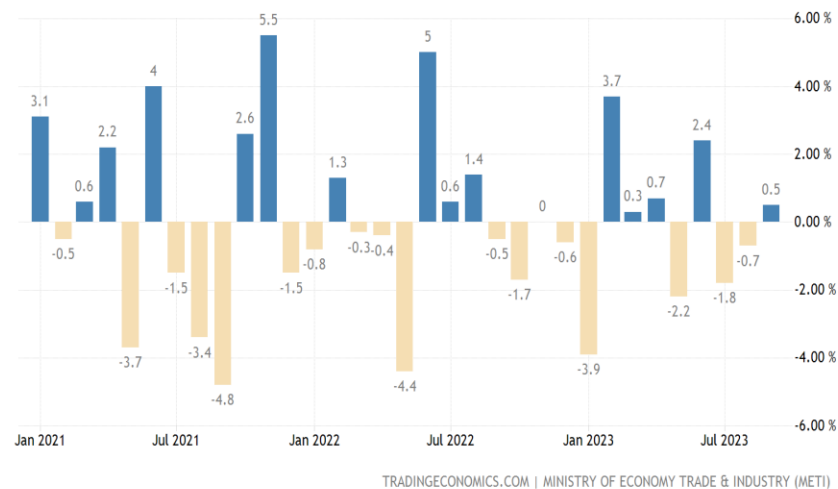
②業種別前月比は**自動車工業+6.0%**、汎用・業務用機械工業+2.5%、化学工業(除く無機・有機化学工業)+2.2%などが上昇。生産用機械工業▲3.4%、電気・情報通信機械工業▲2.8%、輸送機械工業(除く自動車工業)▲5.6%などが低下。

③業種別前年比は生産用機械工業▲21.4%、無機・有機化学工業▲7.3%、汎用・業務用機械工業▲5.8%、電子部品・デバイス工業▲9.1%、金属製品工業▲7.0%、パルプ・紙・紙加工品工業▲5.7%、などが低下。**自動車工業+12.5%**、輸送機械工業(除く自動車工業)+3.7%などが上昇。

④10月の製造工業生産予測指数は前月比+3.9%の上昇、11月は▲2.8%の低下を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(除く輸送機械)出荷は前月比▲3.0%、前年比▲13.1%

⑥基調判断は「生産は一進一退」に据え置き



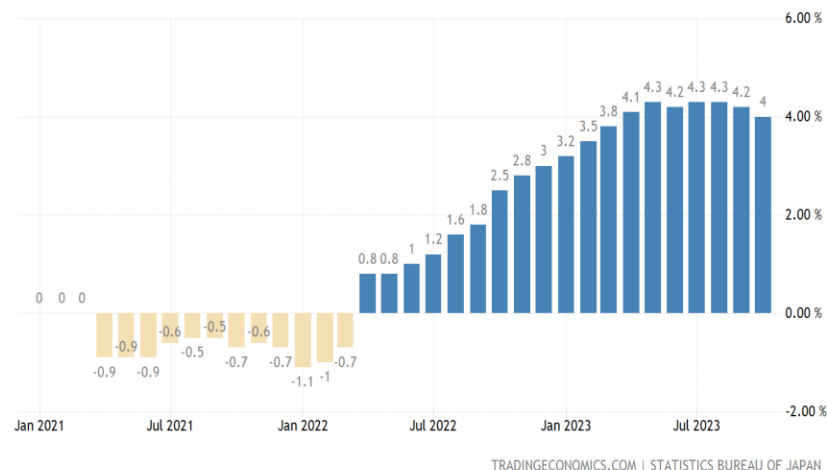
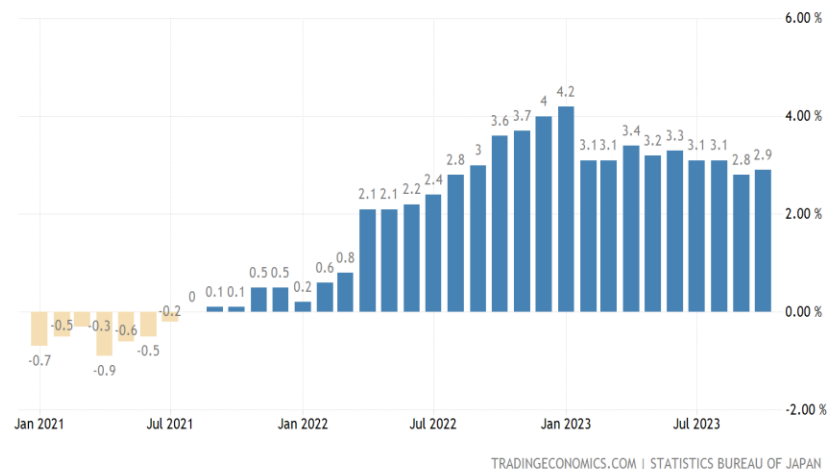
12. 消費者物価の伸びは食料価格が7割の寄与

①10月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右上図)は+2.9%と前月の伸びを+0.1ポイント上回る。前月比は+0.5%。

②生鮮食品及びエネルギーを除く総合(コアコア)の前年比(右下図)は+4.0%と前月の伸びを▲0.2ポイント下回る。前月比は+0.1%

③消費者物価総合の前年比は+3.3%と前月より+0.3ポイント上回る。前月比は+0.7%。エネルギーの前年比は電気代、都市ガス代の下落幅拡大により▲8.7%、寄与度は▲0.75%と前月との寄与度差は+0.26ポイント。**食料の前年比は+8.6%、寄与度は+2.33%と総合指数の上昇率+3.3%の7割を占める。**

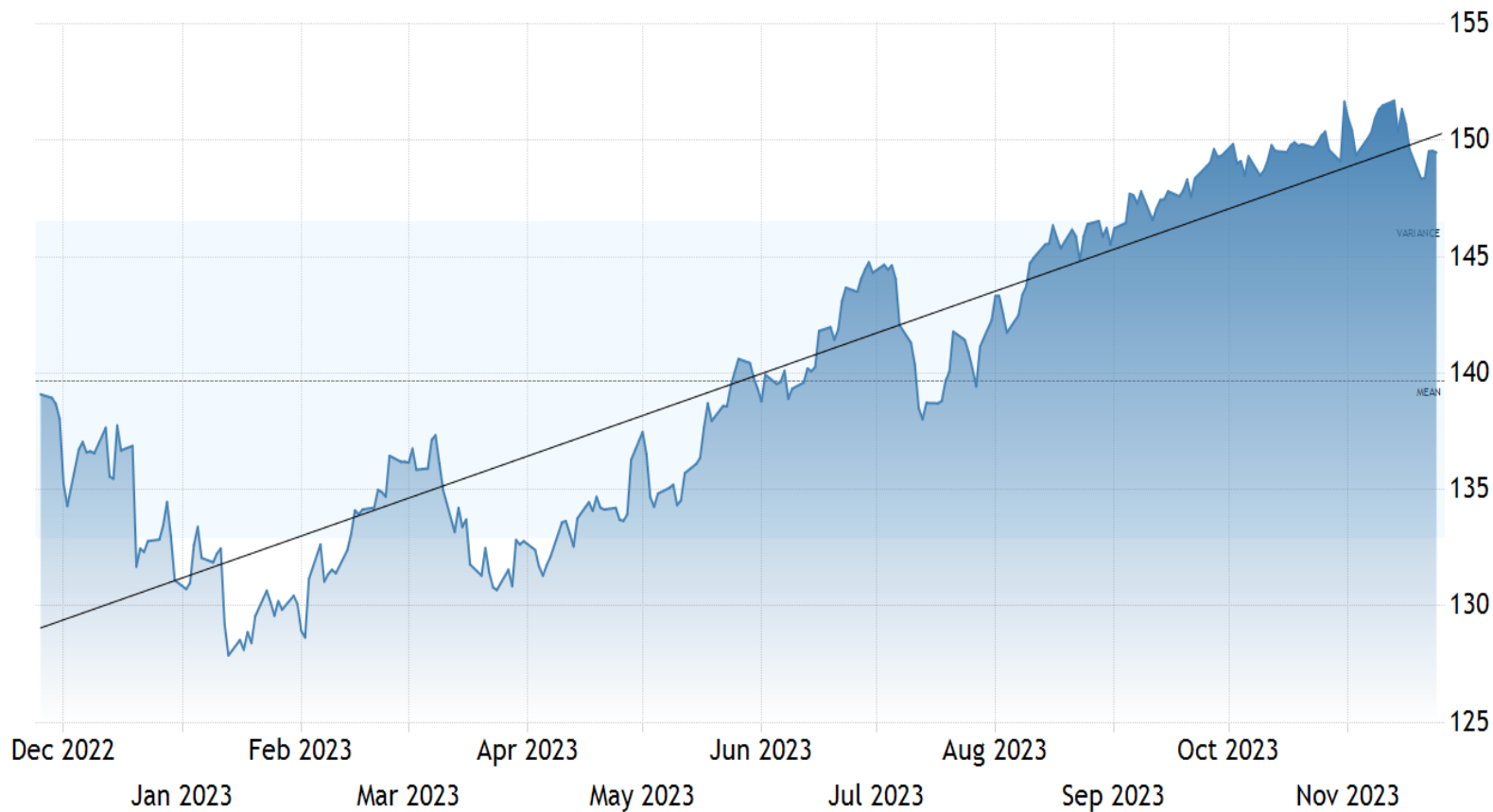
④項目別前年比で上昇は火災・地震保険料+13.2%、鶏卵+31.2%、炭酸飲料+17.2%、宿泊料+17.9%、通信料(携帯電話)+10.2%。低下は電気代▲24.6%、都市ガス代▲17.5%。





V マーケット動向

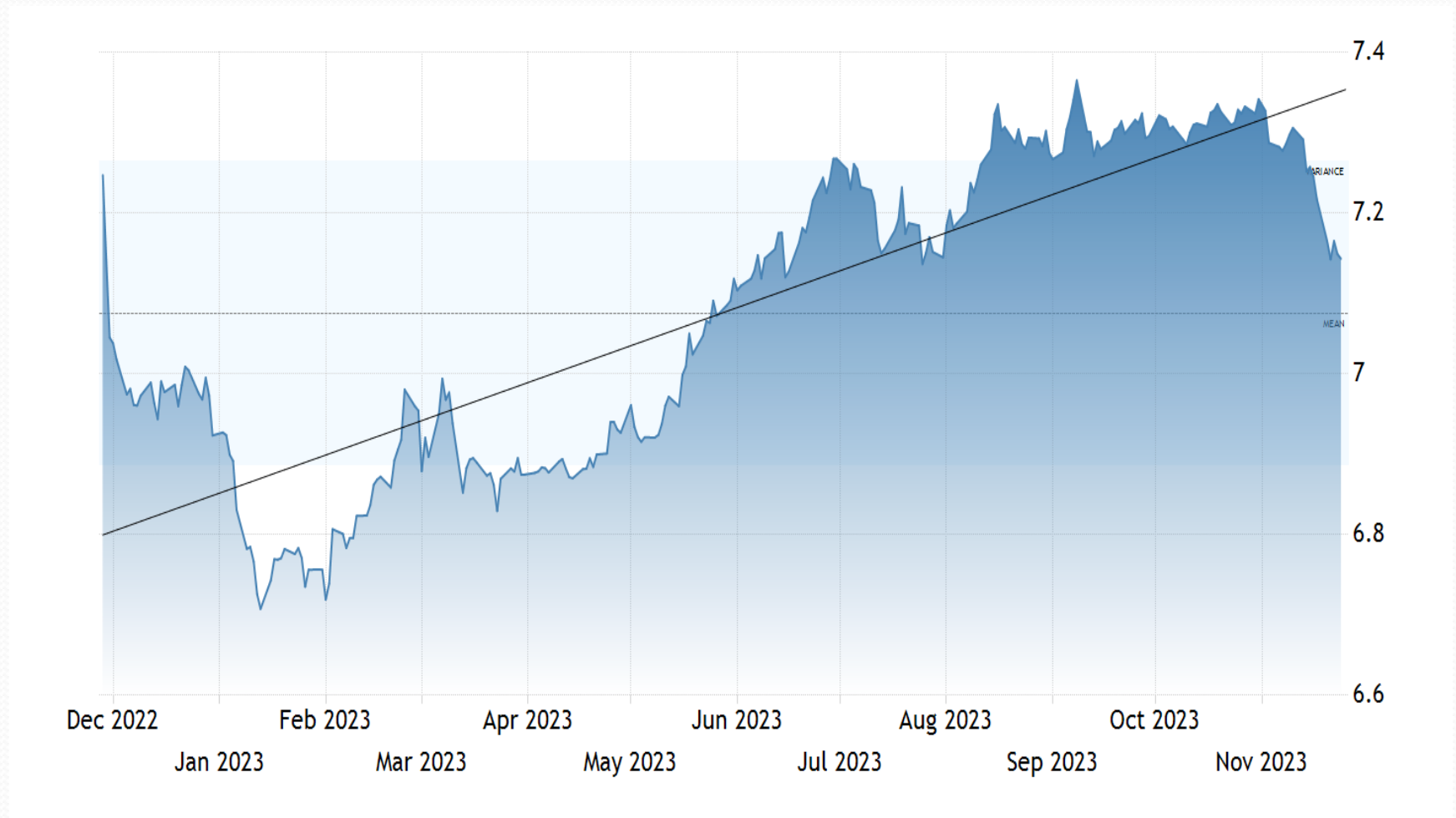
1. 介入警戒とFed政策を巡り152円手前で折り返し



2. ユーロは下げ止まりから反転上昇の動き



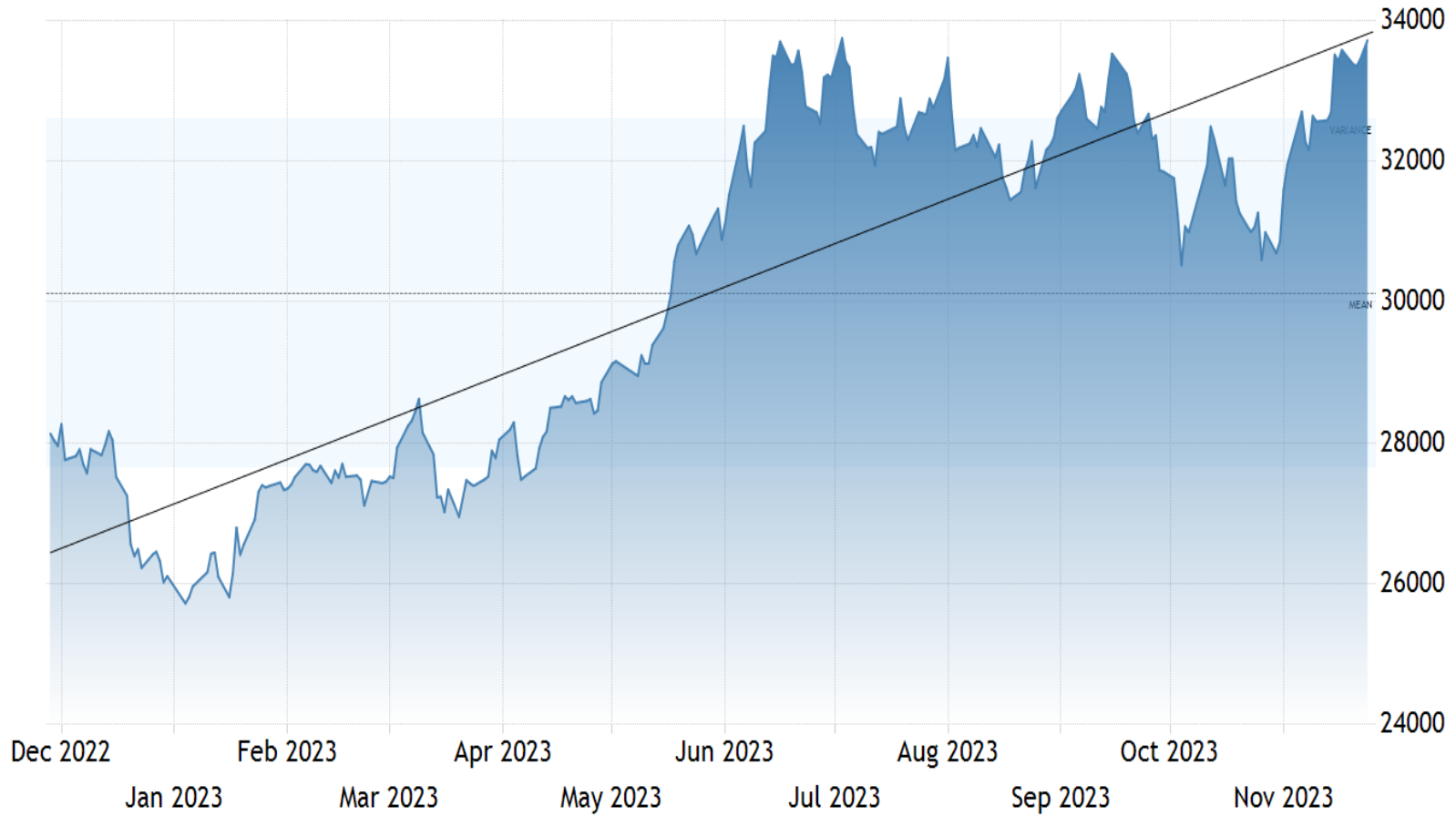
3. 人民元は対ドル安値圏から元高に戻す



4. NYダウはFed利上げ局面終了の見方から上昇



5. 日経平均は一時、年初来高を上回る



6. 独株価 (DAX) は日米と同時に大きく回復



7. 上海株価は戻すも下降トレンドは継続



8. 米長期金利は利上げ終了観測から低下



9. 日本の長期金利はYCC柔軟化による上昇の反動



10. 独長期金利の上昇は頭打ち



11. 中国の長期金利は低位安定の様相



12. 原油価格 (WTI) は世界景気の減速懸念から低下



13. 金価格はイスラエル・ガザ戦争で上昇





これは長年、世界経済の真実を
追いかけてきた著者が到達した
日本の未来を照らす希望の書だ！

—— 丹羽宇一郎氏

講談社 新書

ディープな一次情報を知る男が
ヒト・モノ・カネの動きから読み解く



完